

次期松戸市総合計画策定における市民参加



令和2年3月
松戸市総合政策部政策推進課

もくじ

- 1 シナリオプランニングが求められる背景…p3
- 2 まつど未来シナリオ会議の概要…p6
- 3 まつど未来シナリオ…p13
- 4 シナリオの活用について…p59

1 シナリオプランニングが求められる背景

1-1 シナリオプランニングとは？

シナリオプランニングとは、5～10年先の将来において起こり得る状況の可能性を複数描き、その結果を施策展開の検討材料として利用する手法のこと。

戦略立案への効果



①現在の戦略・施策の妥当性を確認できる

- 複数シナリオに対して、現在の戦略・施策が機能するか
- 資源投入の優先度の検討

②目指すべき未来を踏まえた戦略立案が可能

- 未来のビジョン
- **着手すべき新たな課題**
- 新規の事業展開

③望ましくないが起こり得る未来に対処する戦略立案

- 将来に対して、「漠然とした不安」や「根拠のない楽観」ではなく、「健全な危機感」を持って対策を講じることが可能となる。
- 確実に起きるかどうかが決めきれないが、起きてしまった際、大きな影響を与えるものを予め考慮に入れた上で、それらの対処法を考えるプロセスをとおして、様々な状況に対応できる柔軟な思考を身につけることが可能となる。

1-2 シナリオプランニングの特徴

長期

日常的に考慮している未来の長さよりも、**長期の未来**を対象にする。

複数

長期の未来における、**不確実な可能性を複数の観点**から検討する。

インプット

作成したシナリオは、アウトプットではなく、**組織でのインプット**として活用する。

時代背景への合致

- **国内外を取り巻く社会経済情勢、技術革新等の変化のスピードが速く、長期的なビジョンや戦略がうまく機能しなくなってきた社会情勢**を背景として、政府や企業等が計画立案の手法を見直すなかで活用事例が増えてきた手法。

1-3 シナリオプランニングの基本的な流れ

①テーマ設定

- シナリオを作成する時間軸・場所・テーマなどを明確にする。

②外部環境要因リサーチ

- テーマに関係のある外部環境を洗い出す。

③重要な環境要因の抽出

- 外部環境要因を不確実性と影響度の観点から分類する。

④ベースシナリオ作成

- ほぼ確実な要因を元に世界を描き、それに備える。

⑤複数シナリオ作成

- 起こり得る複数の世界を描く。

⑥シナリオ詳細分析

- 各シナリオの中身を詳細に把握するため分析を行う。

⑦戦略オプション検討

- 完成したシナリオを元に今後の対応策を検討する。

2 まつど未来シナリオ会議の概要

2-1 まつど未来シナリオ会議の目的

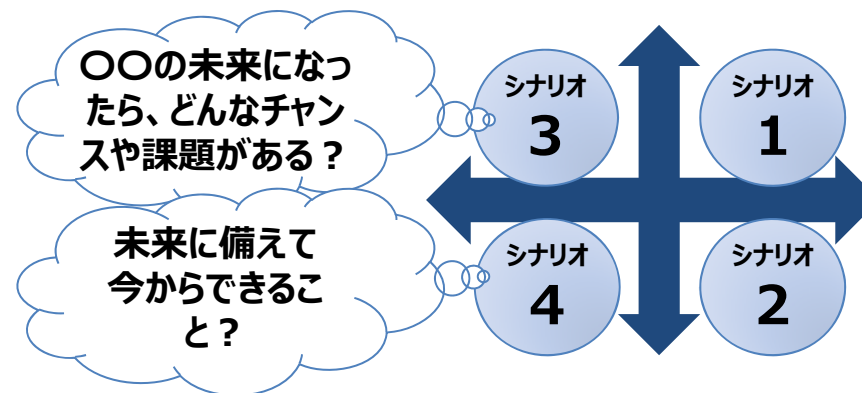
次期総合計画の策定にあたり、変化のスピードが速い時代に対応できるよう、不確実な未来に適応し得る戦略立案を可能とする手法『シナリオプランニング』を活用して戦略を検討するため、『まつど未来シナリオ会議』を開催。

2-2 会議の内容

『2030年の日本における私たちの暮らし』をテーマに、将来起こり得る複数のシナリオを作成し、松戸市がチャンスや課題に備えるための対応策などを検討する。

確実に起こり得る未来
(ベースシナリオ)

もし起きたとき私たちの暮らしを大きく変える未来 (複数シナリオ)



2-3 メンバー

市民と職員との共同作業によって、未来への関心や熱意などを共有し、
実践につながる新しい交流が生まれることを期待

市民・事業者等 29名

市役所の各部署から推薦された、
本市の主要施策に関連した
事業・活動に積極的に取り組んでいる方



若手・中堅職員 33名

今後10年の重点施策を担うことが
期待される職員（平成30年度に戦略シ
ナリオプランニングの研修を受けた職員）



市民メンバー 一覧

氏名（敬称略）	所属等
秋山 美香	野菊野こども館、森のこども館、NPO法人松戸子育てさぼーとハーモニー
安達 里季	青少年相談員
阿部 剛	NPO法人まつどNPO協議会、CHIEの輪
石川 康代	松戸市保育園協議会
上野 義介	松戸市緑推進委員会
影山 貴大	合同会社ジェイ・ドック・カンパニー
川西 諭	上智大学経済学部
朽木 量	千葉商科大学政策情報学部地域連携推進センター
近藤 泰久	カネキ近藤農園
篠澤 史子	まつどやさしい暮らしラボ
下藤 一武	松戸市消防団
庄子 涉	PARADISE AIR
正田 貴之	社会福祉法人六高台福祉会
神保 正宏	ななつぼし法律事務所
鈴木 公一	松戸市PTA連絡協議会

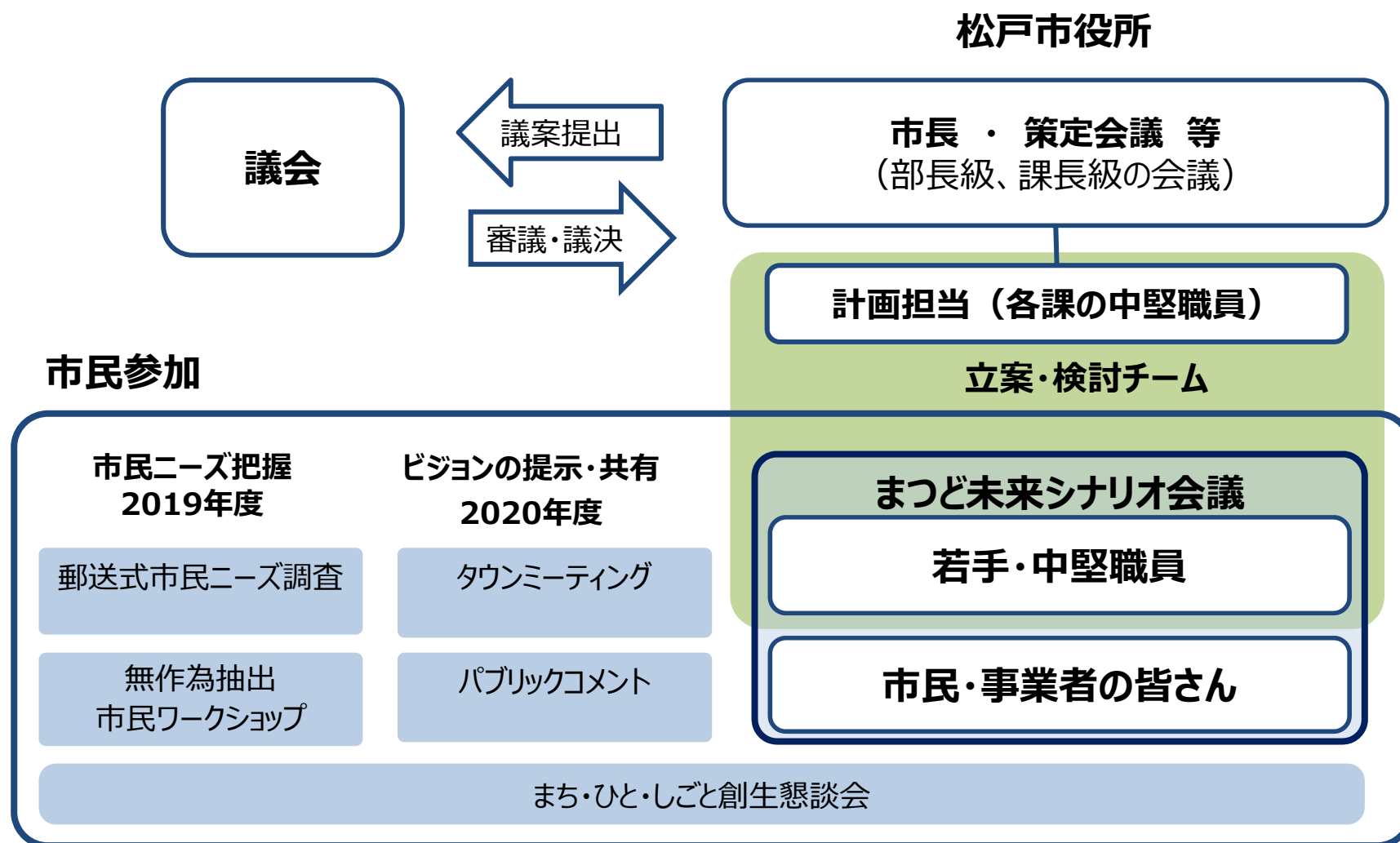
氏名（敬称略）	所属等
陶山 トウフォン	まつど国際文化大使
奈賀 綾子	松戸市PTA連絡協議会
中山 晃一	株式会社葛西屋商店
長濱 和代	松戸市環境審議会、松戸里やま応援団樹人の会
成嶋 伸隆	小金園芸品出荷協会
萩野 正和	一般社団法人STUDIO MOC、株式会社connel
日暮 聡	松戸市消防団
星野 健一	株式会社Cygames
松村 大地	一般社団法人まつど地域共生プロジェクト、NPO法人まつどNPO協議会
松村 刀志嗣	サムライ一級建築士事務所
松本 亜希	松戸市健康推進員協議会
水田 泰子	公務員
宮下 剛幸	公務員
山田 美和	NPO法人MamaCan、NPO法人まつどNPO協議会

職員メンバー 一覧

氏名	所属 (H31年度)
黒川 義之	会計課
岡村 洋佑	総務部 行政経営課
小松 裕之	総務部 行政経営課
石川 真大	総務部 総務課
竹本 恭士	総務部 危機管理課
綾 良仁	総合政策部 広報広聴課
菅野 淳一	総合政策部 東京オリンピック・パラリンピック推進課
奥田 洋士	財務部 契約課
渋谷 悠生	財務部 市民税課
田中 永志	市民部 市民自治課
高橋 おきな	市民部 常盤平支所
大村 慶明	経済振興部 商工振興課
鈴木 博之	環境部 廃棄物対策課
桑原 厚	環境部 環境保全課
田中 秋衣	健康福祉部 健康福祉政策課 法人監査担当室
岩崎 剛大	健康福祉部 地域福祉課
岡 明憲	福祉長寿部 高齢者支援課 地域包括ケア推進担当室

氏名	所属 (H31年度)
豊福 真衣	福祉長寿部 国民健康保険課
兵藤 百恵	福祉長寿部 介護保険課
上村 尚也	福祉長寿部 障害福祉課
後藤 繁樹	子ども部 子ども家庭相談課
倉品 吉成	街づくり部 住宅政策課 宅地担当室
新治 若奈	街づくり部 建築審査課
新井 統幸	建設部 建設総務課
初井 俊二	市議会事務局 議事調査課
河上 友秀	監査委員事務局
鎌田 哲平	農業委員会事務局
永淵 智幸	生涯学習部 教育企画課
池田 沙央理	生涯学習部 社会教育課
藤中 孝一	学校教育部 指導課
田嶋 啓介	水道部 工務課
田中 光	病院事業管理局 経営企画課
矢口 成王	消防局 八ヶ崎消防署

(参考) 総合計画の策定体制とまつど未来シナリオ会議



2-4 日程とワーク内容

日時・会場		ワーク内容
準備会 (職員のみ)	令和元年 7月10日(水)9~17時 別館地下1階研修室	<ul style="list-style-type: none"> ○松戸市の現状分析 ○ベースシナリオ分析 ○複数シナリオ分析
第1回 (市民・職員)	8月4日(日)13~17時 議会棟3階会議室	<ul style="list-style-type: none"> ○未来を考えるシナリオプランニングの必要性 ○松戸市の現状を知る ○2030年の日本に影響を与える外部環境要因を考える
第2回 (市民・職員)	8月31日(土)13~17時 市民会館301会議室	<ul style="list-style-type: none"> ○「2030年の日本における私たちの暮らし」ベースシナリオ（案） <ul style="list-style-type: none"> ・ ベースシナリオについての対話 ・ ベースシナリオの松戸市への影響（チャンス・リスク） ・ ベースシナリオをもとにしたニーズ ・ 2030年に向けた取り組み
第3回 (市民・職員)	9月7日(土)13~17時 市民会館301会議室	<ul style="list-style-type: none"> ○「2030年の日本における私たちの暮らし」複数シナリオ（案） <ul style="list-style-type: none"> ・ 複数シナリオ（案）についての対話 ・ シナリオタイトルを考えてみる
第4回 (市民・職員)	9月21日(土)13~17時 市民会館301会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・ 複数シナリオの松戸市への影響（チャンス・リスク） ・ 複数シナリオをもとにしたニーズ ・ 2030年に向けた取り組み
振返り会 (職員のみ)	10月30日(水) 9~17時 別館地下1階研修室	<ul style="list-style-type: none"> ・ シナリオの再検討 ・ シナリオの活用に向けて

2-5 参加したメンバーの声（抜粋）

シナリオプランニング という手法について

- **2030年の日本を考える機会**は今まであまりなく、考えても暗い未来しか思い描くことができなかったのですが、今回、**シナリオプランニングという方法を使って具体的かつ多面的に考えることで、明るい未来もあることに気づきました。**
- 松戸の未来について、ネガティブなことばかり思いついてしまいましたが、逆にチャンスになることにも気づかされました。**松戸にはポテンシャルが多くあり、まだまだ可能性があることを再発見しました。**
- **想定外のことから考える、未来を起点に考える、多様な立場の人で考える**というやり方はとても参考になりました。すぐく考えさせられました。
- **不確実な未来にも現状の策は対応可能か？**を考えるのはとても労力が**必要ですが重要**だと思いました。視野が広がりました。

市民と職員の 共同作業について

- それぞれの生活環境や立場、仕事によって問題意識もアイデアも違う。**それこそがまちづくりの基本**だと思った。
- 市民メンバーと話すことで、つい行政目線で考えてしまうところに、**新鮮な風を入れてもらえた**と思う。

シナリオの活用について

- 今回のシナリオづくりにおいて出されたニーズについて、将来的に職務上果たしていけそうなものもあり、**常に未来に対するニーズ意識を持って行きたい**と思います。
- すべてのシナリオでネットリテラシーや英語教育など『教育』が取り組むべきものとして挙げられました。**未来を考えるにあたっては、子ども達に明るい未来・希望があることを伝えるのが大事**だと思いました。

3 まつど未来シナリオ

3-1 シナリオテーマ

まつど未来シナリオのテーマは、
『2030年の日本における私たちの暮らし』

シナリオプランニングでは、『時間軸』×『地理軸』×『未来のテーマ』から、シナリオを考えるテーマを設定する。

時間軸

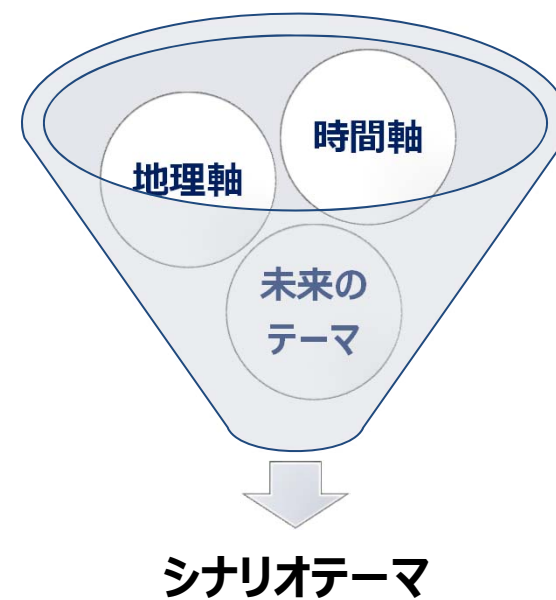
- ・ 次期総合計画（仮称）の計画期間（2021～2028年度）を考慮。
- ・ 計画期間の『少し先』を見据えつつ、統計データの取りやすさから、『2030年』を設定。

地理軸

- ・ 日本全体、首都圏、松戸市という視点を持つため、『日本』に設定。
- ・ 世界における日本といったグローバルな視点も考慮できる。

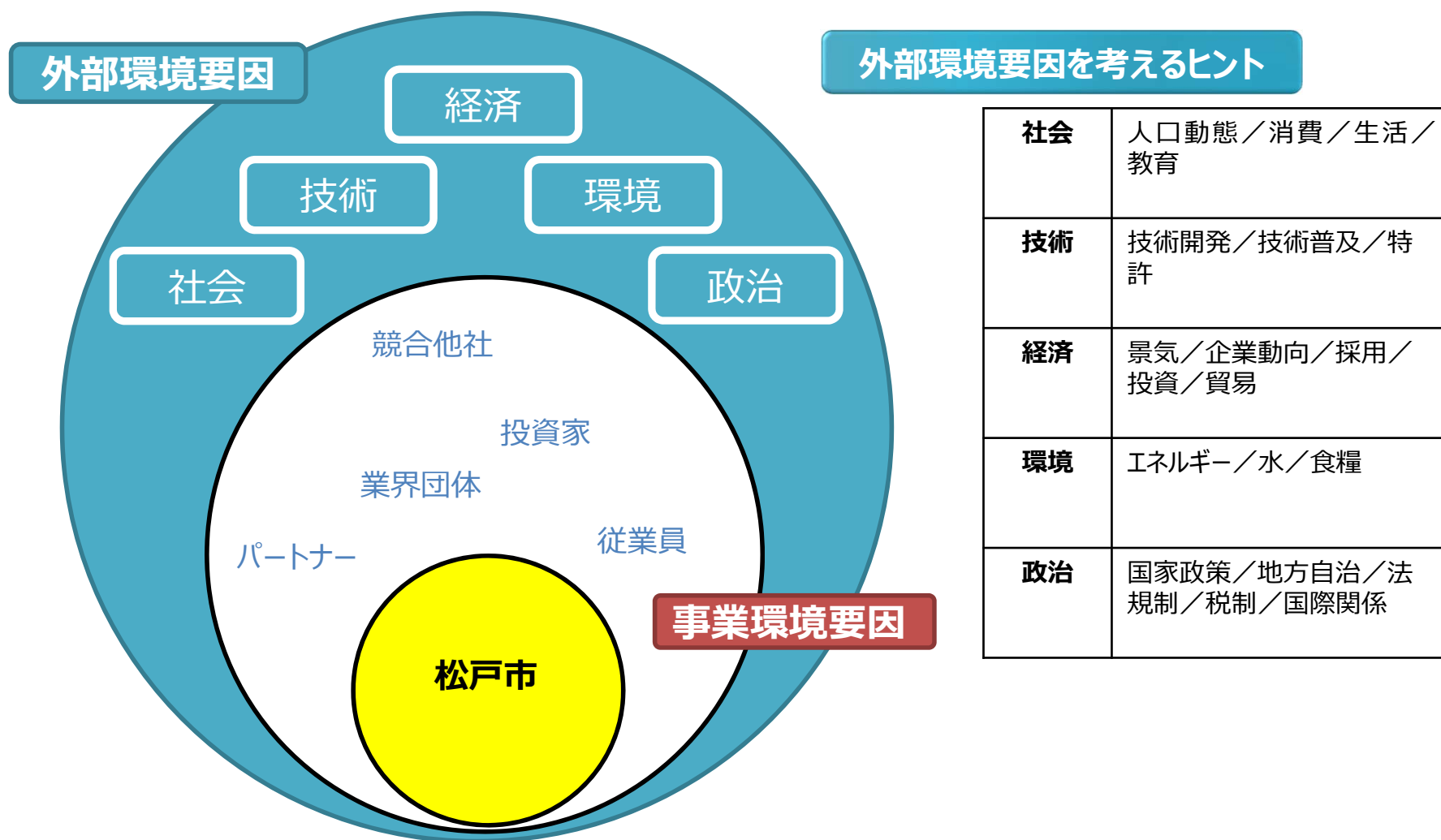
未来のテーマ

- ・ 働き方や学び、遊び、地域など、総合的な視点を持つため、また、市民や自治体が自分ごととして未来を考える視点を持つため、『私たちの暮らし』を設定。



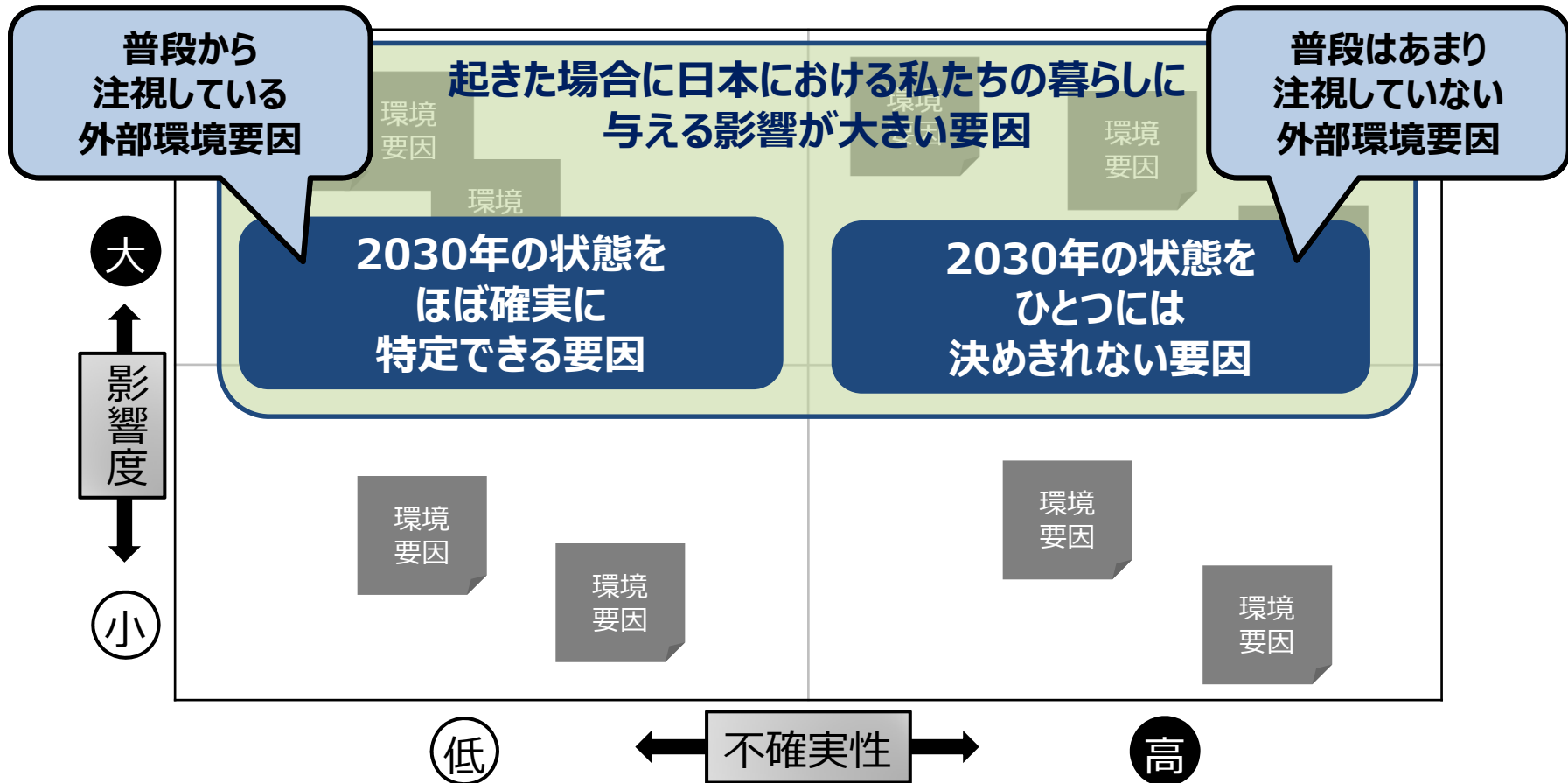
3-2 2030年の日本における私たちの暮らしに影響を与える外部環境要因

- まつど未来シナリオ会議では、『2030年の日本における私たちの暮らし』に影響を与える外部環境要因をグループワークにて検討。
- 会議に先立ち、H30年度『戦略シナリオプランニング研修』でも、職員メンバーが詳細に検討。



不確実性マトリクス

- 『2030年の日本における私たちの暮らし』に影響を与える要因を『不確実性マトリクス』で分類した。
- 影響度**：起きた場合に、私たちの暮らしに与える影響が大きいかどうか？
- 不確実性**：2030年の状態をほぼ確実に特定できるかどうか？
- シナリオプランニングでは、普段はあまり注視していない『不確実な外部環境要因』にも注目して未来の可能性を考える。



3-2 2030年の日本における私たちの暮らしに影響を与える外部環境要因

	ほぼ確実な外部環境要因（ワークショップでの意見まとめ）
社会	高齢化、少子化、ゴミ問題の深刻化、外国人の増加、空き家の増加、労働人口減少、認知症患者の増加、医師・看護師不足、世界的人口増加、社会格差の拡大、晩婚化、社会インフラの老朽化、生産年齢人口の減少、ひとり暮らし世帯の増加
技術	ヒト・モノの移動の高速化、テクノロジーによる労働の効率化、キャッシュレス化、医療技術の進歩、再生医療、ビッグデータ活用、電気自動車の活用、VR技術の進歩
経済	国内消費の減少、労働時間の多様化、女性の労働力拡大、終身雇用の崩壊、IT人材不足、クラウドファンディングの活用増加
環境	温暖化、異常気象、再生可能エネルギー、気候変動、水素エネルギー活用、環境汚染、プラスチックごみ規制
政治	幼児保育無償化、社会保障費の増大、財政難、年金支給開始年齢引き上げ

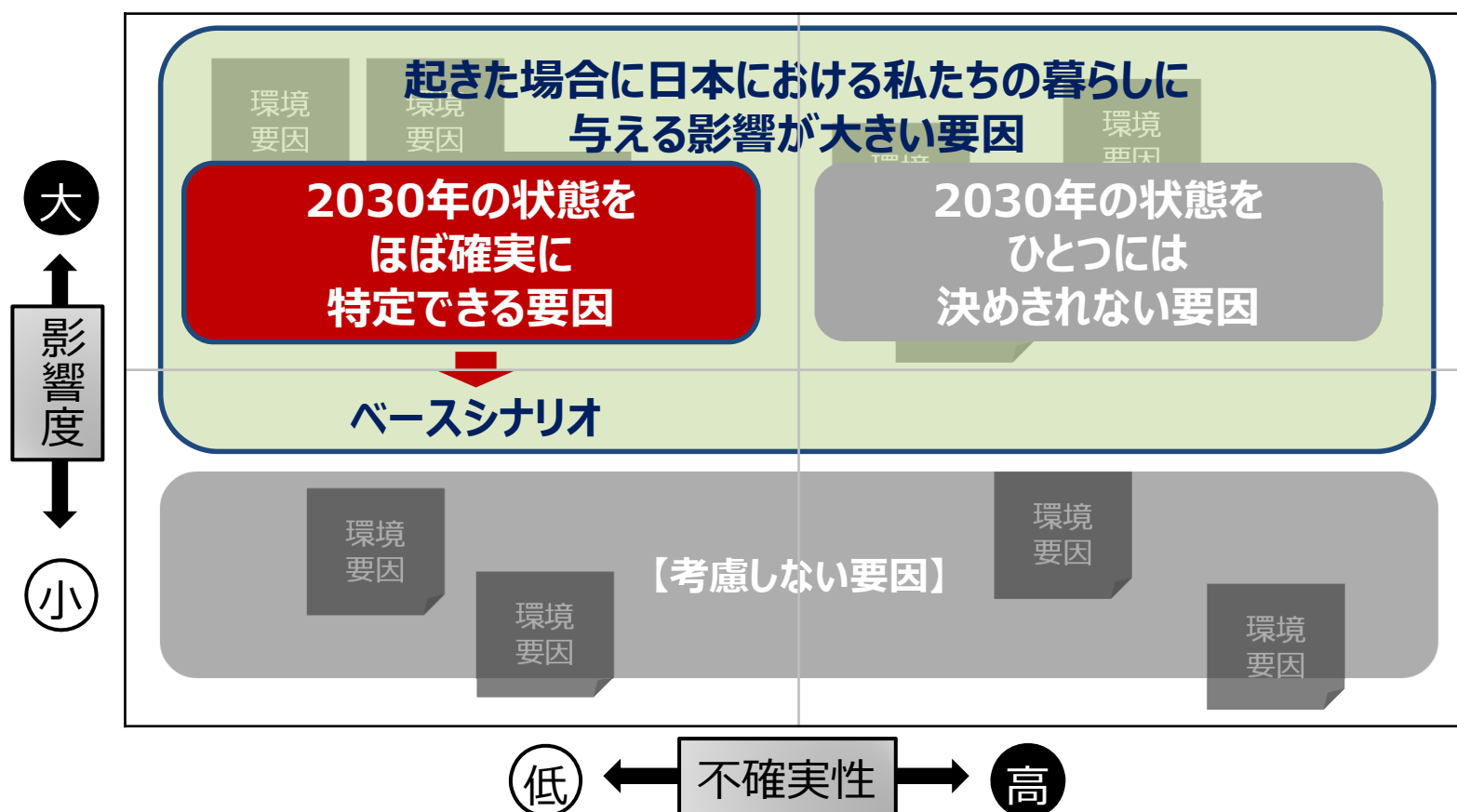
不確実な外部環境要因（ワークショップでの意見まとめ）

社会	大規模災害、宗教の多様化、テレワークの普及、遠隔医療完全導入、震災の発生、食糧難、平均寿命90歳、地震、治安悪化、世界的な人口移動、消費のシェア、認知症・感染症の増加、戦争・テロ、週休3日、富の二極化、価値観の多様化、パーソナルデータの提供、失業者の増加、外国人への介護の必要性増加、LGBTQが広がる、外国人移民の増加
技術	AI等の技術進化、知的AI、仮想現実・拡張現実、AI・ロボット普及、医療ID導入、知的な人工知能の普及、再生医療普及、ロボットの普及、宇宙産業の進展、遺伝子操作、公立学校の教科書デジタル化
経済	仮想通貨の日常利用、増税、シェアエコノミー、定年延長、為替の変動、ふるさと納税の増加、中小企業減少、生産性向上、観光人口増加、非正規雇用増加（多様な働き方が当たり前になる）、テレワークの発展
環境	天然資源減少、自然エネルギーへの転換、温暖化による海面上昇、食品ロス、賃金低下、二酸化炭素削減目標の達成、水素社会、資源をめぐる紛争、気温上昇
政治	税金負担増、自由貿易、教育制度改革、教育無償化、社会保険破綻、ベーシックインカム、消費税増税、自治体の消滅、移民受入れ、米中の圧力、憲法改正、マイナンバーカードの普及

3-3 ベースシナリオ

2030年の日本における私たちの暮らしに与える影響が大きく、ほぼ確実に未来の状態を特定できる外部環境要因から、ベースシナリオを作成。

- ベースシナリオとは、『2030年の日本における私たちの暮らし』についてほぼ確実に特定できる世界を表したもの。どのような複数シナリオにも共通して起きるシナリオ。
- 統計情報等をベースとして、未来においてほぼ確実に起きる世界を分析する。





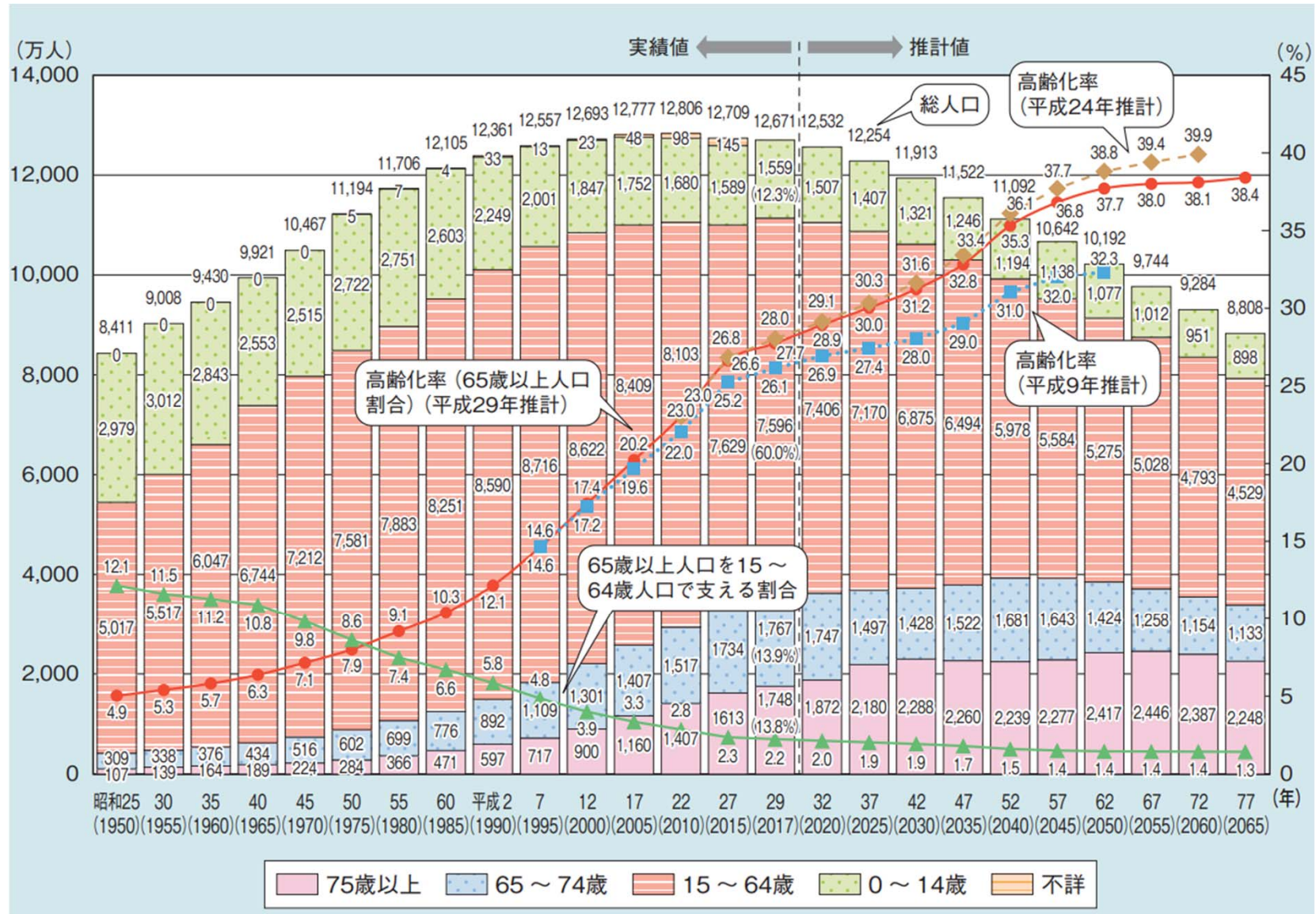
2030年の人口動態（少子高齢化）

<世界でも類を見ない超高齢社会>

【ポイント】2030年の日本は少子高齢化が進んでいる。高齢化率は31%を超え、平均寿命も延びている。少子化も進み、15歳未満の人口は約1,321万人にまで減っている。

- 2030年の日本の人口は約1億1,912万人※¹と1億2千万人を切っており、引き続き減少傾向が続いていくと見られている。年齢別にみると、65歳以上の人口は3,700万人を超え、高齢化率は31%を超えている。平均寿命も、男性で82.39歳、女性で88.72歳にまで延びており※²、日本は世界でも類を見ない高齢化社会となっている。
- 高齢化が進む半面、少子化も進んでいる。出生率は2030年には1.428にまで下がり※³、15歳未満の人口は約1,321万人にまで減っている。その背景のひとつに、未婚率の増加がある。2030年時点における生涯未婚率（50歳時点で一度も結婚したことのない人の割合）は男性で28.0%、女性で18.5%となっている※⁴。
- 同じように単独世帯の数も増え続けており、2030年には2千万世帯を超え、日本の世帯数全体の37.9%を占めている※⁵。

根拠となる参照データ



出典：平成30年版高齢社会白書 (http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2018/zenbun/pdf/1s1s_01.pdf)

2030年の人口動態（都道府県別）

<首都圏における後期高齢者人口の増加>

【ポイント】都道府県別に見ると、2030年には総人口の30%が南関東圏に集中している。高齢者および後期高齢者の数が急増しており、介護の負担が大きく増えている。

- このような人口の動きを都道府県別に見ると、2030年にかけては東京都と沖縄県では人口が増えているが、それ以外の45道府県で人口が減少している※6。
- 人口の分布を見ると、2030年には日本の総人口の約30%が南関東圏（埼玉 5.9%、千葉 5.0%、東京 11.7%、神奈川 7.5%）に集中している ※7。
- これらの地域は2030年には高齢者および後期高齢者（75歳以上の高齢者）の数が大きく増えている。後期高齢者の数で見ると、埼玉約127万5千人、千葉約112万6千人、東京約198万7千人、神奈川約153万1千人となっている※8。
- 例えば千葉県は2015年と比べて後期高齢者が59.2%も増えている。このような急激な高齢者および後期高齢者の増加により、首都圏では介護の負担も大きく増えている。

根拠となる参照データ

表4 全国の総人口に占める各地域ブロックの総人口の割合

ブロック	平成27年 (2015)	平成32年 (2020)	平成37年 (2025)	平成42年 (2030)	平成47年 (2035)	平成52年 (2040)	平成57年 (2045)
北海道	4.2	4.2	4.1	4.0	3.9	3.9	3.8
東北	7.1	6.9	6.7	6.5	6.3	6.1	5.8
関東	33.8	34.4	34.9	35.4	35.8	36.4	36.9
北関東	5.4	5.3	5.3	5.2	5.2	5.1	5.0
南関東	28.4	29.0	29.6	30.1	30.7	31.3	31.9
中部	16.9	16.8	16.8	16.7	16.7	16.7	16.6
近畿	17.7	17.7	17.6	17.5	17.4	17.3	17.3
中国	5.9	5.8	5.8	5.7	5.7	5.7	5.7
四国	3.0	3.0	2.9	2.8	2.8	2.7	2.7
九州・沖縄	11.4	11.3	11.3	11.3	11.3	11.3	11.3

地域区分

北海道:北海道 東北:青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県 北関東:茨城県、栃木県、群馬県

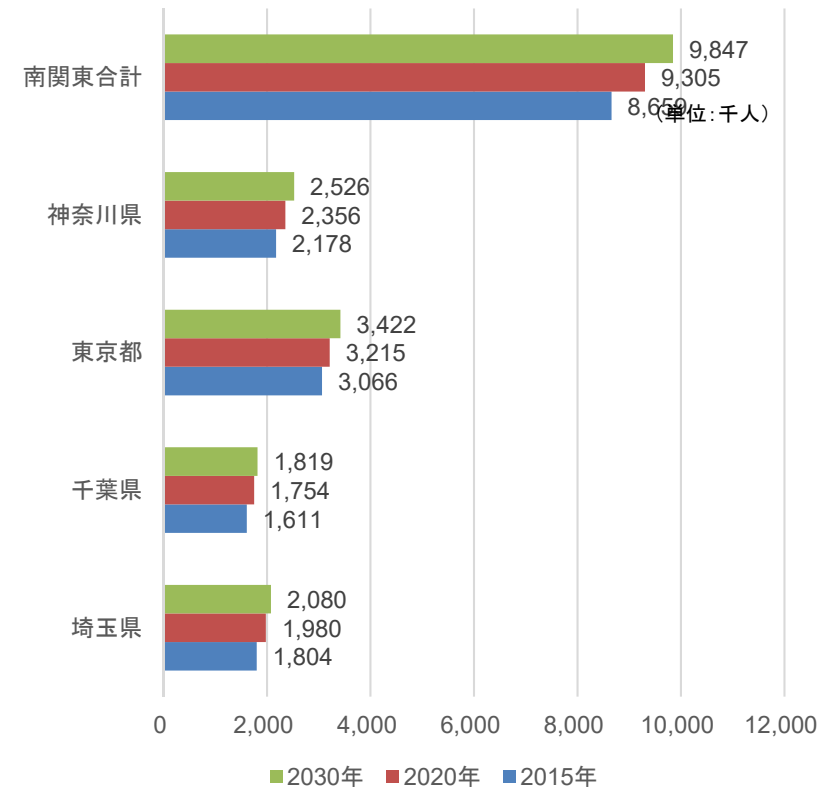
南関東:埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県 中部:新潟県、富山県、石川県、福井県、山梨県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県

近畿:三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県 中国:鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県

四国:徳島県、香川県、愛媛県、高知県 九州・沖縄:福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

出典：日本の世帯数の将来推計（全国推計）2018年（平成30）年推計 9ページ（http://www.ipss.go.jp/pp-ajsetai/j/HPRJ2018/houkoku/hprj2018_houkoku.pdf）

南関東圏における高齢者数の推移



日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）25ページを元に作成
 (http://www.ipss.go.jp/pp-shicyoson/j/shicyoson18/1kouhyo/gaiyo_s.pdf)

2030年の人口動態の変化に伴う人的課題

<ダブルケアなどの負担増>

【ポイント】高齢化の進展により認知症患者も高齢者の約5人に1人にまで増えている。このような状況では老老介護やダブルケアを強いられる人も増えている。

- このように高齢化が進むことで、介護の負担が増えている。さらに、高齢化が進むことで認知症患者数も増加しており、2030年には65歳以上の認知症患者数が744万人（高齢者の約5人に1人、20.8%）を超えている※⁹。このような状況では、65歳以上の高齢者を同じく65歳以上の高齢者が介護する老老介護や、介護と子育ての両方の負担が同時に発生するダブルケアなどの課題が目立ってきている。
- 介護そのものの負担だけではなく、介護に伴い、離職を強いられる人の増加といった課題も起きている※¹⁰。

根拠となる参照データ

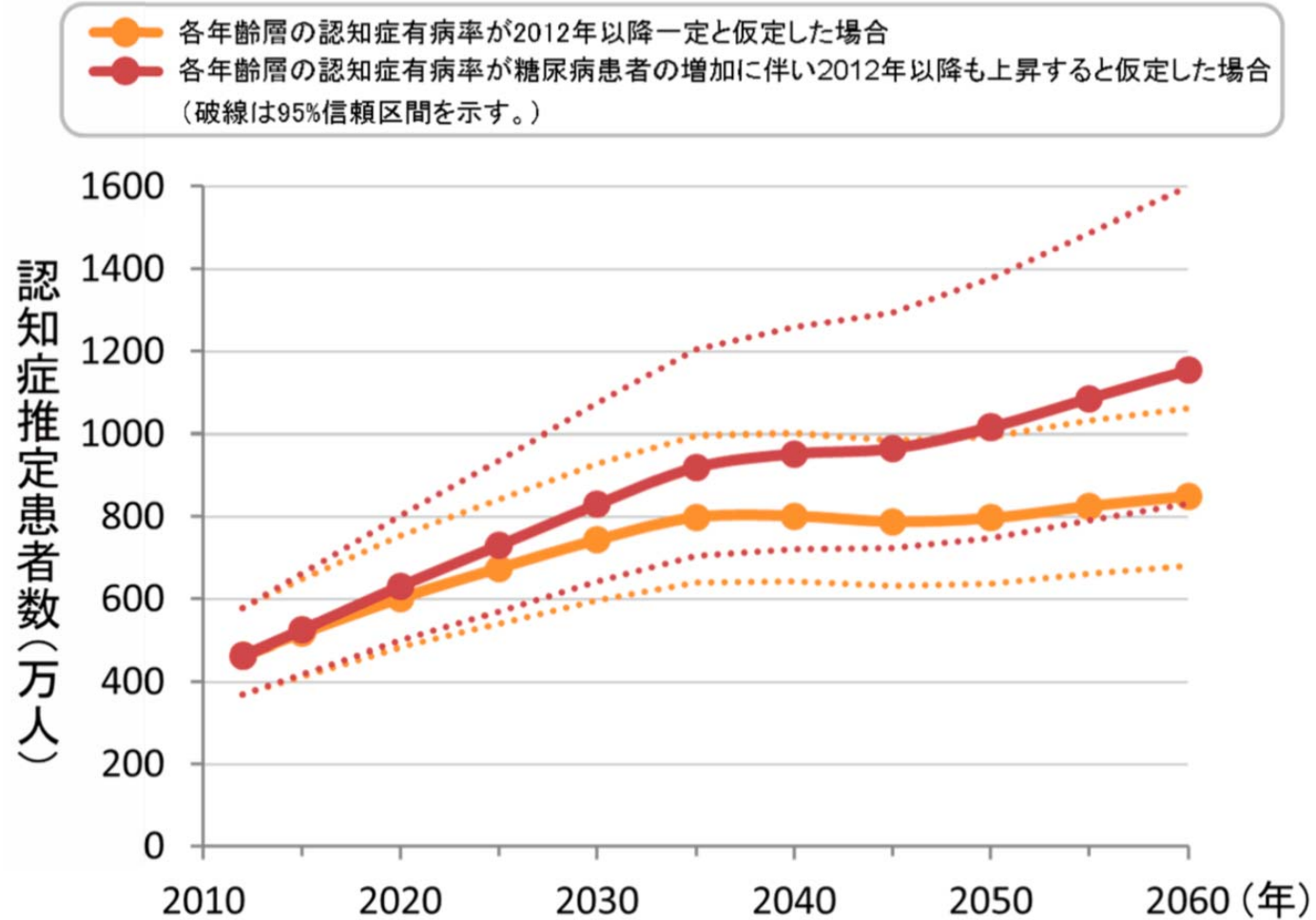


図2: わが国における認知症患者数の将来推計

(厚生労働省の全国調査により報告された2012年の認知症患者数で補正後)

出典: 日本における認知症の高齢者人口の将来推計に関する研究

(<https://mhlw-grants.niph.go.jp/niph/search/NIDD00.do?resrchNum=201405037A>)

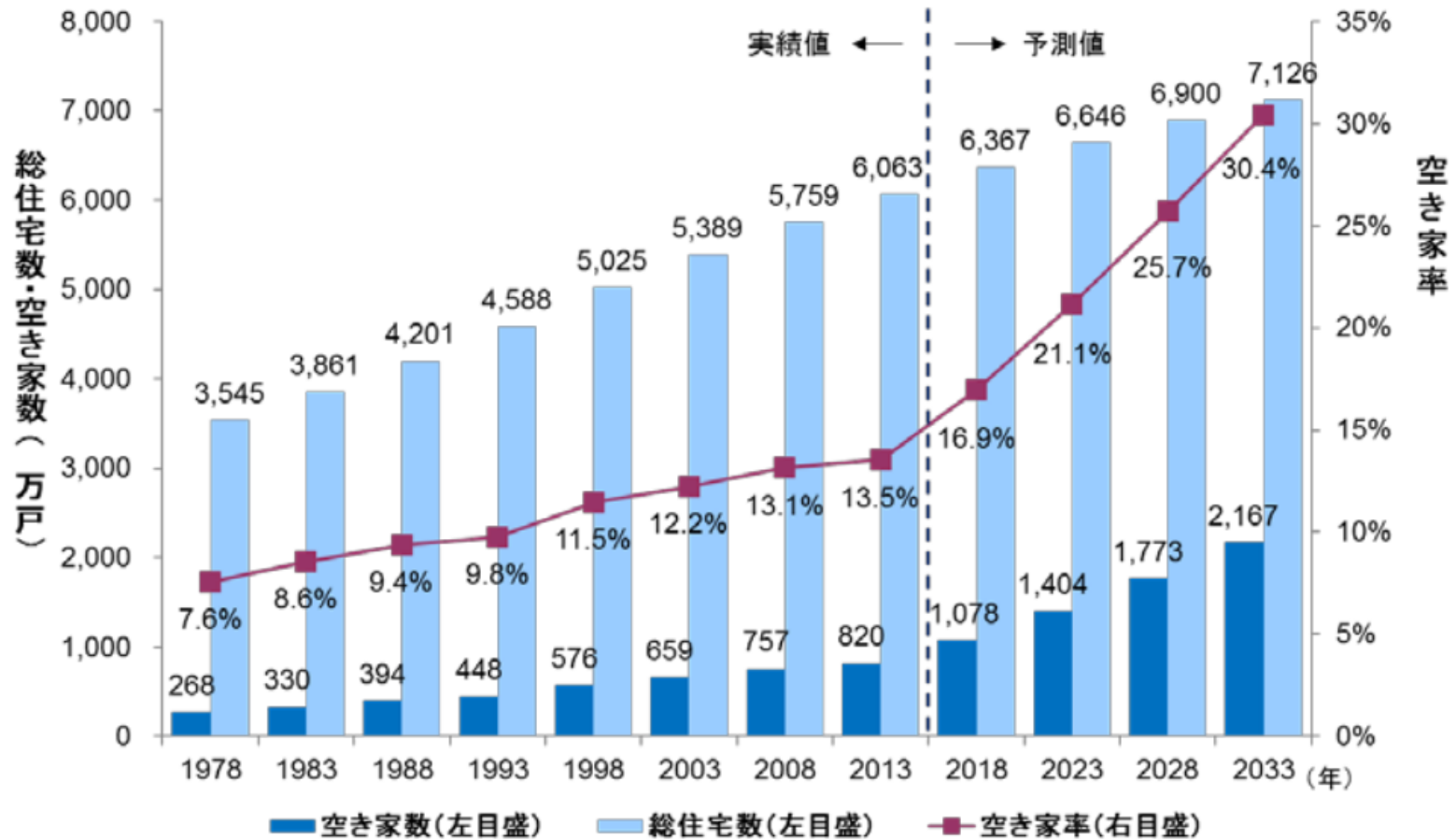
2030年の高齢化に伴う社会課題

<空き家の増加やインフラの老朽化>

【ポイント】高齢化や世帯数の減少に伴い、空き家の増加や自治体などの税収減という課題も起きている。税収減によりインフラ投資が十分に行えない結果、インフラの老朽化なども進んでいる。

- 高齢化やそれに伴う世帯数の減少により、空き家の増加などの社会的な課題も目立ってきており※¹¹、2030年には空き家の数が2000万戸近く※¹²にまで増えている。その他、特に人口減少、高齢化が進んでいる地方において顕著な影響として、税収の減収がある※¹³。
- さらに公的サービスの高齢化対応（公的医療サービスの対応や街のバリアフリー化）による負担増などもきっかけとなり、少ない税収の中でのインフラ投資減によるインフラ老朽化や地域公共交通の撤退など付随的な課題も顕在化している※¹⁴ ※¹⁵。

図1 総住宅数、空き家数および空き家率の実績と予測結果



出所)実績値は、総務省「住宅・土地統計調査」より。予測値はNRI。

出典：2030年の既存住宅流通量は34万戸に増加

(https://www.nri.com/-/media/Corporate/jp/Files/PDF/news/newsrelease/cc/2016/160607_1.pdf)

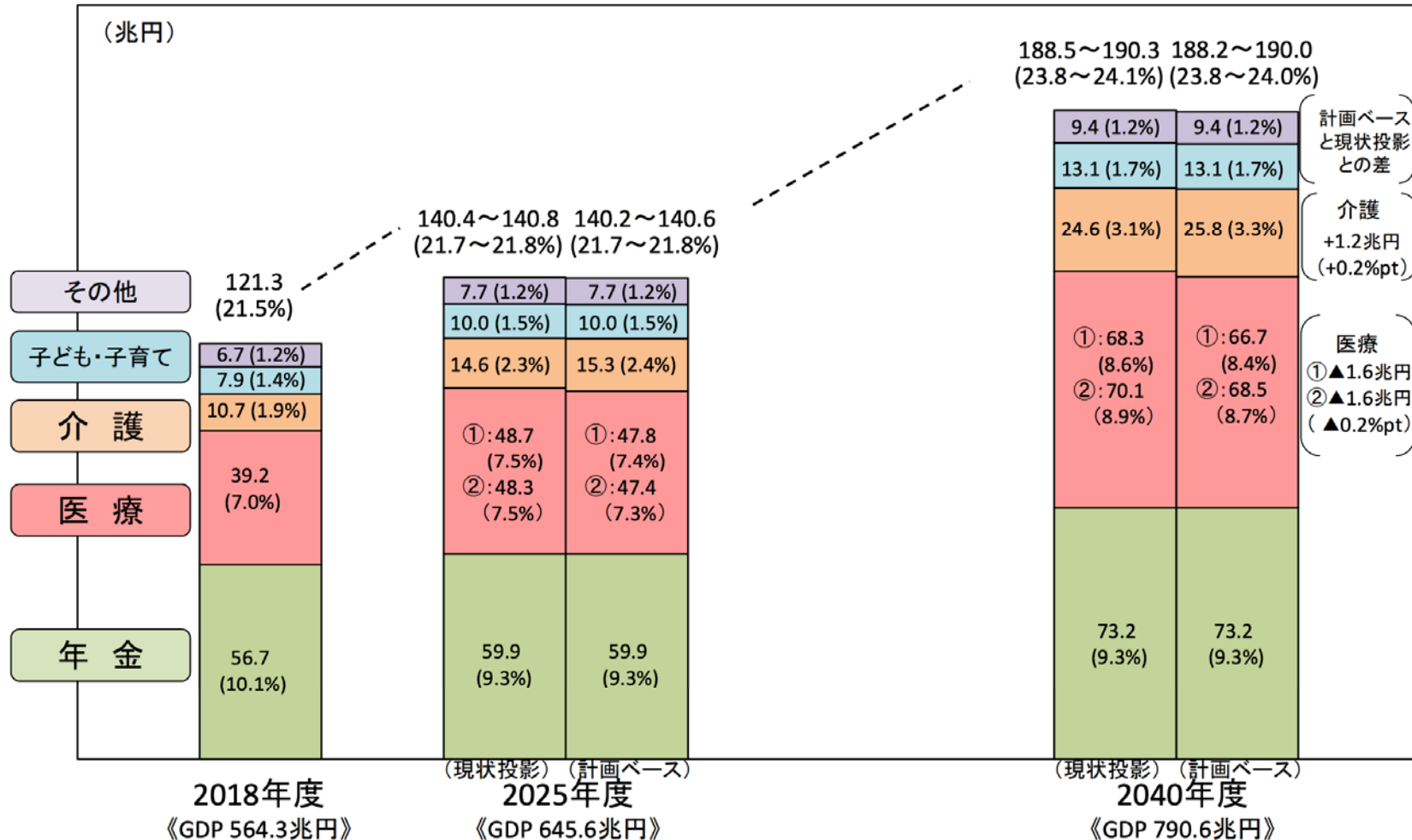
人口動態の変化に伴う社会保障の課題

<社会保障の増大>

【ポイント】高齢化によって社会保障負担も増えている。財源となる社会保険料をまかなう生産年齢人口も減少しているため、結果として現役世代の負担が増え、さまざまな面に影響を与えている。

- 高齢化が進んだことで年金の他、医療や介護による社会保障給付が増え、それに伴い社会保障負担が増えている。2015年に110.6兆円だった社会保障給付費は、2030年には140兆円を優に超えるまで増大しており、社会保障負担も同程度にまで増えている※¹⁶。このように社会保障負担が増えると、その財源である社会保険料も増えることになるが、それをまかなうための生産年齢人口は減少を続けている。
- 結果として現役世代の負担が大きくなっており、消費や、結婚や出産などに影響を与えている。

根拠となる参照データ



(注1) ()内は対GDP比。医療は単価の伸び率について2通りの仮定をおいており給付費に幅がある。

(注2) 「現状投影」は、医療・介護サービスの足下の利用状況を基に機械的に計算した場合。「計画ベース」は、医療は地域医療構想及び第3期医療費適正化計画、介護は第7期介護保険事業計画を基礎とした場合。

出典：2040年を見据えた社会保障の将来見通し

(<https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-12600000-Seisakutoukatsukan/0000207399.pdf>)

人口動態の変化に伴う労働面の課題

<働き方の変化>

【ポイント】少子高齢化の結果、労働力人口の大幅な減少が見込まれていたが、この状況を少しでも緩和しようと女性活躍推進や高齢者・外国人雇用などの取り組みが行われている。

- 少子高齢化の影響は私たちの働き方にも影響を与えている。2030年の労働力人口は2014年比で787万人減少する（約5,800万人）※¹⁷と言われていたが、女性活躍推進や定年延長などによる高齢者雇用の増加、外国人労働者の増加※¹⁸など、この状況を少しでも緩和しようとする取り組みが行われている。

根拠となる参照データ

図1 労働力人口の推移（男女別、単位：万人）

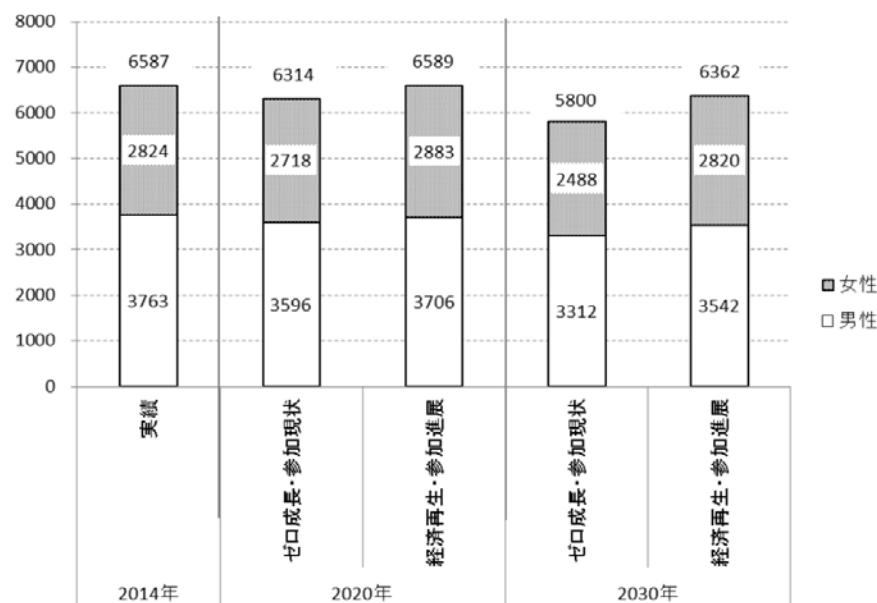
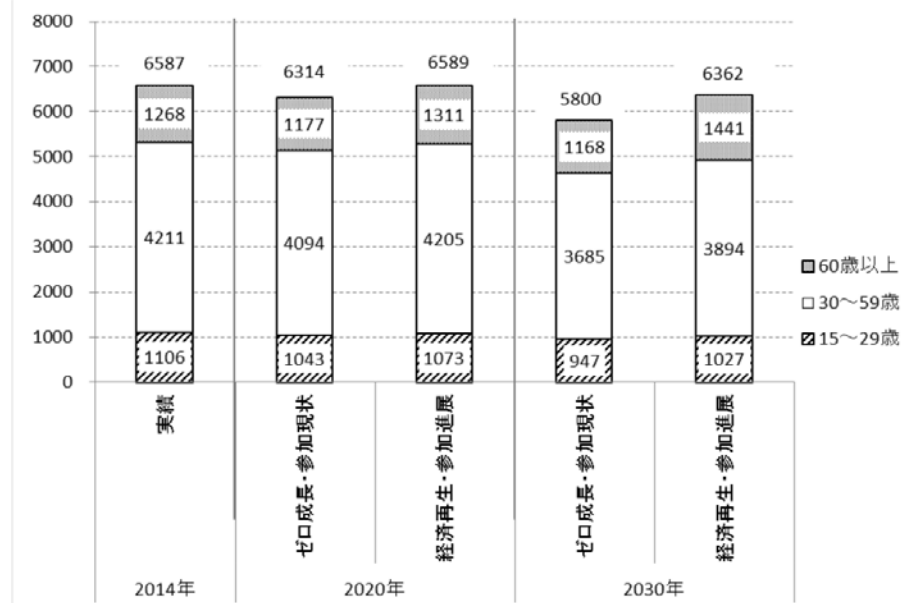


図2 労働力人口の推移（年齢階級別、単位：万人）



用語注：

- ・ 経済再生・労働参加進展：経済成長、及び若者、女性、高齢者などの労働市場参加が進む想定
- ・ ゼロ成長・労働参加現状：ゼロ成長に近い経済成長で、性・年齢階級別の労働力率が2014年と同じ水準で推移する想定

出典：平成27年 労働力需給の推計

(<http://www.jil.go.jp/press/documents/20151216.pdf>)

2030年の技術進化と活用の可能性

<未来技術の進化>

【ポイント】無線通信やIoTなどの技術が進化し、各種端末から収集したデータをAIで分析することで、状況にあわせた最適な処理や動作を行うことができるようになってきている。

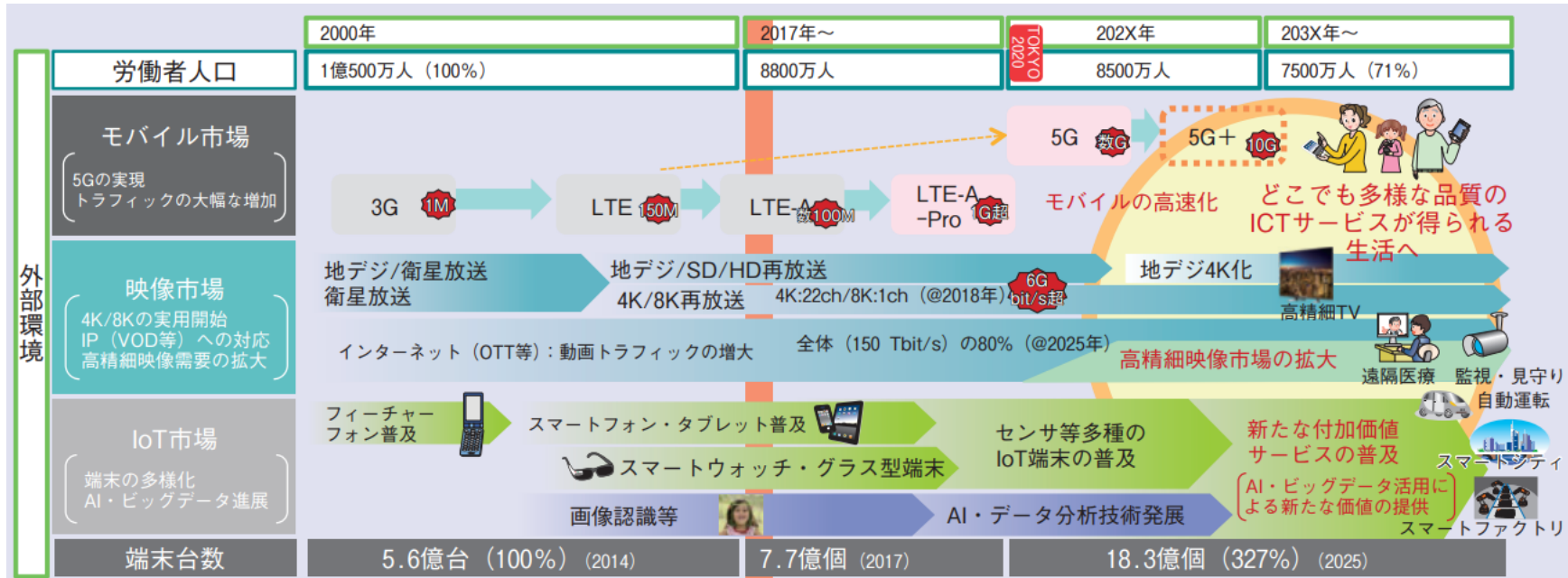
- 働き方や生活の多様化に影響を与えているのは、さまざまな技術の進化である。例えば通信技術はBeyond 5G ※19と呼ばれる超高速の無線通信が実現し、アクセス手段や端末、データ通信量を気にせずにサービスを活用することができるようになってきている。
- これによって実用化が進むのが以前から技術開発が進められてきたIoT ※20である。高速化されたモバイル通信とIoT技術の進化により、自動車や家電、家やウェアラブル端末 ※21などからあらゆるデータを収集している。このように収集したデータをAI ※22が分析することで、データの収集元である家電や家、各種端末だけではなく、自動運転車やロボットにデータを送り、それらの端末等が状況にあわせた最適な処理や動作を行うことができるようになってきている。

注) IoT (Internet of Things) とは「モノのインターネット」と呼ばれるもので、自動車、家電、ロボット、施設などあらゆるモノがインターネットにつながり、情報のやり取りをすることで、モノのデータ化やそれに基づく自動化等が進展し、新たな付加価値を生み出すというもの。

注) ウェアラブル端末とは、人の体に身につける端末のことで、装着形態に応じてメガネ型、時計型、リストバンド型などに分類されている。

注) AIとはArtificial Intelligenceの略で「人工知能」のこと。

根拠となる参照データ



出典： Beyond 5G時代のアクセスネットワーク技術実現に向けた取り組み
(<http://www.ntt.co.jp/journal/1803/files/JN20180318.pdf>)

2030年の環境に関するマクロな変化

<環境に対するSDGs等の取り組み>

【ポイント】地球環境は、これまでよりも厳しいものになっている。この状況に対応するため国や行政、民間企業によるSDGsを元にした取り組みなどが活発に行われている。

- 地球環境は、気温の上昇が続く※²³など、総合的に見てこれまでよりも厳しいものになっている。そのような気候環境の変化などに対応するために、国や行政、民間企業によるSDGs ※²⁴の取り組みが活発になっている。この取り組みによって、再生可能エネルギーの活用や省エネの推進などが行われている。

注) SDGsとはSustainable Development Goalsの略で「持続可能な開発目標」と呼ばれる。2015年9月の国連サミットで採択された国際目標で、持続可能な世界を実現するための17のゴール、169のターゲットから構成され、日本としても積極的に取り組んでいくとされている。

根拠となる参照データ



普遍性 先進国を含め、全ての国が行動

包摂性 人間の安全保障の理念を反映し「誰一人取り残さない」

参画型 全てのステークホルダーが役割を

統合性 社会・経済・環境に統合的に取り組む

透明性 定期的にフォローアップ

出典：SDGsについて

(https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/pdf/about_sdgs_summary.pdf)

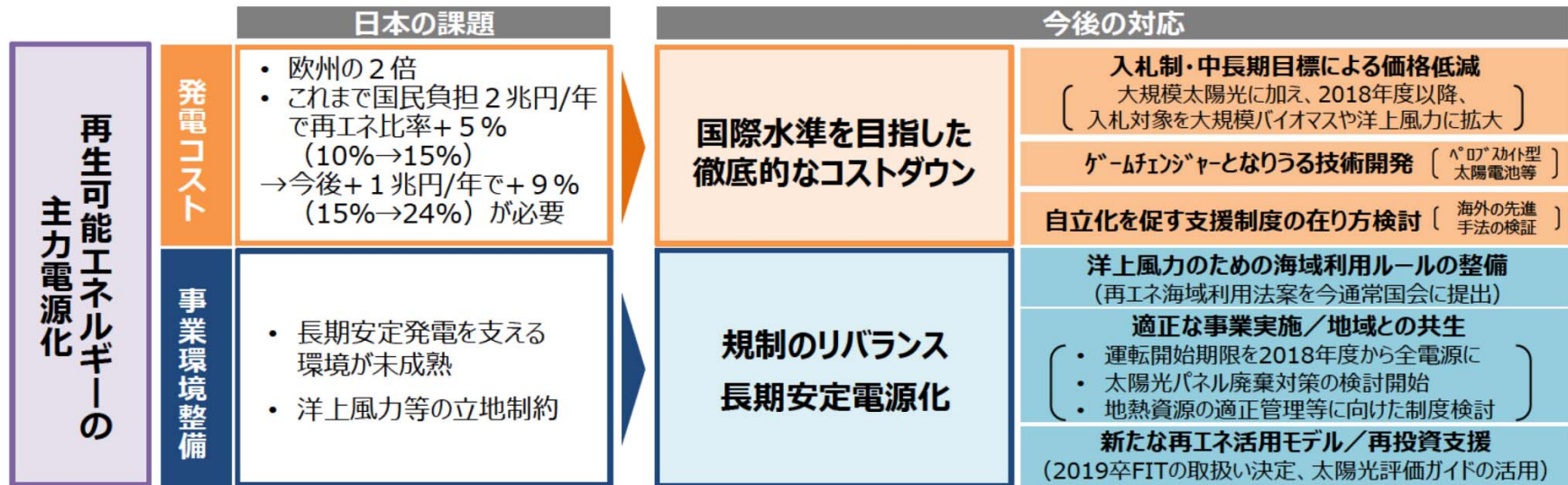
2030年の環境に関するミクロな変化

<生活におけるエネルギー利用の変化>

【ポイント】2030年には太陽光や風力、地熱、水力などを活用した再生可能エネルギーの活用が進んでいる。また、住宅やエネルギー消費機器などの省エネルギー化も進んでいる。

- 国内のエネルギーに関する取り組みとしては、2018年に定められた第5次エネルギー基本計画※²⁵に基づき、2030年には太陽光や風力、地熱、水力などを活用した再生可能エネルギーが全体の電源構成比率の中の20%超を占めている※²⁶。さらに住宅やエネルギー消費機器などにおける省エネルギー技術の活用も進めることで、最終エネルギー消費やエネルギー起源CO²排出量削減も実現している。

根拠となる参照データ



出典：第五次エネルギー基本計画を踏まえた電力・ガス政策の方向性について
https://www.meti.go.jp/shingikai/enecho/denryoku_gas/denryoku_gas/pdf/010_04_00.pdf

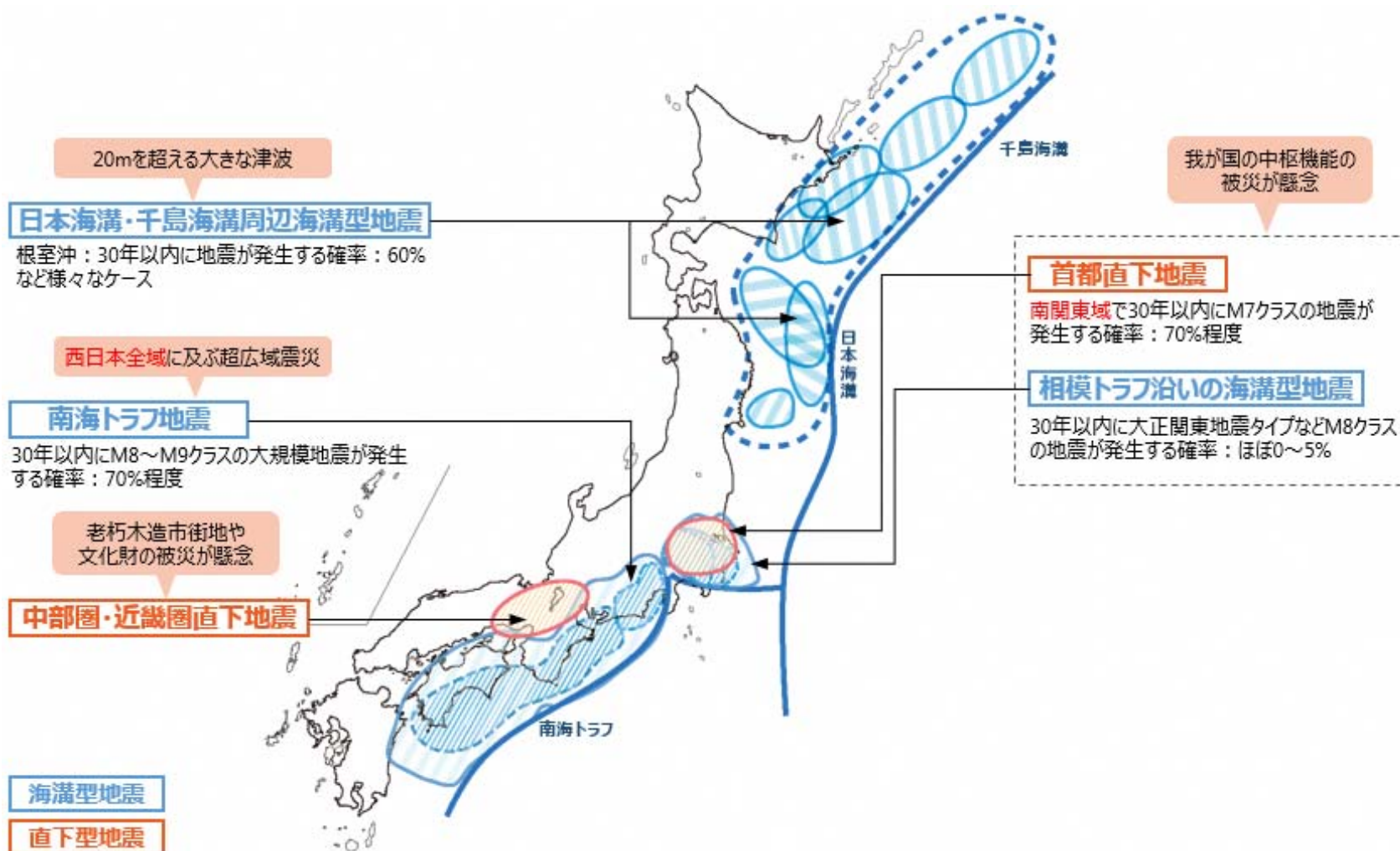
2030年の災害対策

<自然災害に対する多面的な取り組み>

【ポイント】引き続きさまざまな自然災害が想定される中、2030年には国や自治体の支援に加え、地域で災害に備える動きが求められている。また災害に対応するための技術開発も求められている。

- 世界有数の火山大国であり、世界平均より降水量が多い日本^{※27}は、高い確率で発生が予測されている首都直下地震や南海トラフ地震などの地震・津波^{※28}の他、台風の激化とそれに伴う堤防の決壊等による大規模水害^{※29}、火山噴火をきっかけとする火山灰の広域降灰とそれに伴う交通や電気等のインフラへの影響^{※30}などの脅威に引き続きさらされている。
- そのような中、2015年の第3回防災世界会議で採択された「仙台防災枠組2015-2030」^{※31}に則り、災害リスクとそれに伴う損失を大幅に削減するための取り組みが引き続き行われている。その取り組みは国や自治体などが支援をする「公助」だけではなく、自ら災害に備える「自助」や地域での備えや災害時の助け合いによる「共助」などの取り組みが求められている^{※32}。
- また災害を予測・察知するための技術、災害情報の共有や利活用の仕組みの構築など、自然災害に対応するための技術開発も求められている。

根拠となる参照データ



出典：地震災害：防災情報のページ - 内閣府
 (<http://www.bousai.go.jp/kyoiku/hokenkyousai/jishin.html>)

データ出典・注釈 一覧

- ※1 国立社会保障・人口問題研究所 日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計
- ※2 国立社会保障・人口問題研究所 日本の将来推計人口（平成29年推計）※「死亡中位」参照
- ※3 国立社会保障・人口問題研究所 日本の将来推計人口（平成29年推計）※報告書 25ページの「中位仮定 人口動態統計定義」を参照
- ※4 国立社会保障・人口問題研究所 日本の世帯数の将来推計（全国推計）2018年（平成30）年推計
- ※5 国立社会保障・人口問題研究所 日本の世帯数の将来推計（全国推計）2018年（平成30）年
- ※6 国立社会保障・人口問題研究所 日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）
- ※7 国立社会保障・人口問題研究所 日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）
- ※8 国立社会保障・人口問題研究所 日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）
- ※9 厚生労働科学研究成果 日本における認知症の高齢者人口の将来推計に関する研究（平成26年度実施）
- ※10 内閣府 高齢者の健康・福祉 | 平成29年版高齢社会白書（概要版）※本資料では老老介護や介護に伴う離職数の増加などの課題が書かれており、その傾向が2030年には深刻化すると想定。
- ※11 国土交通省 住生活基本計画（全国計画）
- ※12 株式会社野村総合研究所 2030年の既存住宅流通量は34万戸に増加～空き家は2033年に2,000万戸超へと倍増
- ※13 みずほ総合研究所株式会社 人口減少が地方財政に与える影響～地方税制見直しへの視点～
- ※14 国土交通省 平成26年度国土交通白書 人口減少が地方のまち・生活に与える影響
- ※15 内閣府 地域の経済2011 補論 2 3. “街の高齢化”の地域経済・社会への影響
- ※16 2040年を見据えた社会保障の将来見通し 内閣官房・内閣府・財務省・厚生労働省
- ※17 独立行政法人労働政策研究・研修機構 平成27年 労働力需給の推計
- ※18 内閣府 経済財政諮問会議 外国人労働力について
- ※19 Beyond 5G：2020年頃を目途に実用化が進められている第5世代（5G）のモバイル通信網をさらに進化させたもののことを指す。このようなモバイル通信が実用化されることで、通信速度が高速化されることに加え、高精細の映像などの従来であればモバイルでは送受信できなかったような大容量データの送受信も可能になる
- ※20 IoT（Internet of Things）：「モノのインターネット」と呼ばれるもので、自動車、家電、ロボット、施設などあらゆるモノがインターネットにつながり、情報のやり取りをすることで、モノのデータ化やそれに基づく自動化等が進展し、新たな付加価値を生み出すというもの（参照：平成27年度 情報通信白書）
- ※21 ウェアラブル端末とは、人の体に身につける端末のことで、装着形態に応じてメガネ型、時計型、リストバンド型などに分類されている。（参照：平成27年度 情報通信白書）
- ※22 AI：Artificial Intelligenceの略で「人工知能」のこと。過去の情報通信白書では「知的な機械、特に、知的なコンピュータプログラムを作る科学と技術」と定義されている。（参照：平成28年度 情報通信白書）
- ※23 環境省・文部科学省・農林水産省・国土交通省・気象庁 気候変動の観測・予測及び影響評価統合レポート2018 ～日本の気候変動とその影響～
- ※24 SDGs：Sustainable Development Goalsの略で「持続可能な開発目標」と呼ばれる。2015年9月の国連サミットで採択された国際目標で、持続可能な世界を実現するための17のゴール、169のターゲットから構成され、日本としても積極的に取り組んでいくとされている。（参照：SDGsとは？ JAPAN SDGs Action Platform 外務省）
- ※25 経済産業省 第5次エネルギー基本計画
- ※26 経済産業省 新しくなった「エネルギー基本計画」、2050年に向けたエネルギー政策とは？スペシャルコンテンツ資源エネルギー庁
- ※27 内閣府 国土が抱える災害リスク（<https://www.mlit.go.jp/river/bousai/library/pdf/kokudo.pdf>）
- ※28 内閣府 地震災害：防災情報のページ
- ※29 令和元年版 防災白書 | 第1部 第1章 第3節 3-2 首都圏等における洪水・高潮氾濫からの大規模・広域避難の検討
- ※30 令和元年版 防災白書 | 第1部 第1章 第3節 3-1 大規模噴火時の広域降灰対策の検討
- ※31 仙台防災枠組 2015-2030
- ※32 令和元年版 防災白書 第1部 第1章 第1節 自助・共助による事前防災と多様な主体の連携による防災活動の推進

ワーク：ベースシナリオの松戸市への影響

ベースシナリオの未来が実現した場合、松戸市が受ける影響について、
松戸市の『チャンス』『リスク』『戦略オプション』を考える。

松戸市のチャンス・リスク

- 2030年の松戸市にとってのチャンスやリスク。
- 一見ポジティブに見える状態にもリスクはあり、ネガティブに見える状態にもチャンスはある。

松戸市の戦略オプション

- 2030年の世界で「こうしてほしい！」「もっとこうなるといい！」と松戸市に住む市民・事業者が持つであろうニーズを検討。
- これを踏まえて、2030年に備えて、今から取り組んでおくよいことを「戦略オプション」として検討。
- また、取組み内容とあわせて、必要な人材や体制づくりについても検討。

ベースシナリオ分析：2030年における松戸市のチャンスとリスク（ワークショップでの意見まとめ）

松戸市の人口・世帯

- 都心に近い立地による人口の維持
- 都心に近い立地による生産年齢人口の維持
- 共働き世帯の増加
- 健康寿命の延伸
- 都心に近い立地による外国人市民の増加
- さらなる高齢化・特に後期高齢者の増加（2025年問題）
- 単独世帯の増加
- 高齢者の単独世帯の増加

人にやさしいまち・共生・持続可能性

- 多文化共生実現のための取り組みの進展
- 外国人市民の増加による国際交流の機会の増加
- 外国人市民による街の魅力発信
- 公共施設再編の進展
- 新市庁舎を契機とした市役所の利便性向上
- 地域の担い手の減少
- 高齢化による財政負担の増大
- インフラ老朽化による財政負担の増大
- ネット社会化によるコミュニティの変化
- 外国人市民の増加による地域社会の混乱
- 外国人市民向けサービスのためのコスト増

子育て・教育・文化

- 全国トップクラスの共働き子育て支援
- テレワーク等子育てや介護しやすい多様な働き方の進展
- 充実した小児医療体制の維持
- ICTやAIなど新技術の活用による教育の質向上や多様化
- 松戸市の農を活かした食育
- 空き家の活用によるアート・文化活動の活性化
- プログラミング教育の高度化やコンテンツ産業による新たな文化創出
- 子育て・教育への予算配分の減少
- 収入格差による教育格差の拡大
- 共働きによる親子のコミュニケーション不足
- 新技術の導入による教育コストの増加
- 教育におけるコミュニケーション不足の懸念
- 外国人市民の増加による教育現場の混乱

いきいきとした暮らし

- 『健康医療都市まつど』の強み
- 楽しみながら歳を重ねられる街
- 健康寿命の延伸による働く高齢者の増加
- 介護・医療分野のビジネス拡大
- 『介護だんし・介護じよし』の取り組みは強み
- 新技術を活用した介護
- 新技術を活用した医療や健康づくりの進展
- 地域共生社会の進展

- 高齢者の孤独死の増加が懸念
- 高齢化率が特に高い地域の課題
- 高齢者の増加による救急体制の圧迫
- 老々介護の増加
- 認知症患者の増加や地域での孤立
- 都心から高齢者や要介護者が流入する懸念
- 介護施設の不足・介護格差の拡大
- 介護離職者の増加
- 外国人市民の高齢化への対応
- キャッシュレス化や新技術のデジタルデバイド
- 市内の墓地や火葬機能の不足

街の魅力や居心地

- 都心に近く緑の多い魅力のアピール
- 松戸駅周辺の新たな都市整備
- 高齢化対応・多様性対応によるバリアフリーの進展
- 次世代交通システムの活用
- 空き家のリノベーションによる魅力的な住環境
- 空き空間の活用による緑の創出

- 物流量の増加による交通渋滞の増加
- 道路が狭い等の理由で自動運転技術の導入の遅れる懸念
- 活用できない空き家の増加
- インフラの老朽化やそれによる公共料金の負担増
- 都市整備に伴う環境への悪影響

地域経済・働き方

- テレワークや起業・副業などの働き方の進展
- 新技術を活用した働き方の進展
- 女性が働きやすい環境整備の進展
- 高齢化に対応したビジネスの拡大
- 高齢者の就業意欲の向上
- 気候変動に対応した新しい農作物の栽培など遊休農地の活用
- 外国人市民の増加による多様なビジネスの増加
- コンテンツ産業の充実
- 企業による土地需要の高まり

- 新技術の活用による単純労働を中心とする雇用の減少
- 共働き世帯の増加による昼間人口の減少
- 保育量の不足
- 社会保障費の負担増による可処分所得の減少
- 商店街の衰退・空き店舗の増加
- 農業従事者の高齢化や気候変動による耕作放棄地の増加
- 開発による農地の減少

安全・安心・快適な暮らし

- 再生エネルギー利用の促進
- 高齢化による安全・安心需要の高まり
- 災害対策拠点の充実
- 新技術を活用した災害対策技術の進展
- 新技術を活用した犯罪対策技術の進展

- 外国人市民の増加によるゴミ分別・減量化の課題
- 気候変動に伴う自然災害の増加、被害の拡大が懸念
- 高齢者や外国人に向けた災害対策の必要性
- 監視技術等によるプライバシーの侵害
- 空き家の増加による治安悪化の懸念
- 新技術を悪用した新たな犯罪の出現

ベースシナリオ分析：2030年における松戸市のニーズと戦略オプション（ワークシoppでの意見まとめ）

人にやさしいまち・共生社会・持続可能性

- **文化の違いを認め合う風土づくり**
 - ・文化や生活の違いを認め合う風土が広まるといい。
 - ・外国人市民への日本文化や松戸市のルール、マナーを情報共有するイベント。
- **外国人市民が住みやすく選ばれる街**
 - ・外国人に松戸市を好きになってもらう取組み。
 - ・様々な国の外国人の相談窓口となる「二大使館」を作る。
- **身近な外国人市民とのコミュニケーションの機会づくり**
 - ・身近な外国人から言語や文化を教えもらいたい。
 - ・市内の外国人と友だちになれるきっかけづくり。
 - ・外国人と交流しやすくなるための市民への外国語教育の機会充実。
- **多言語化や外国人の就労支援などのサポート**
 - ・行政機関等の案内や窓口の外言語化や分かりやすい情報提供。
 - ・外国語での標識など公共施設、交通機関等の多言語化を進める。
 - ・『ポケット』など通訳ツールを普及させる。
 - ・外国人による自国の文化・言語を生かした仕事・活動の支援。
 - ・先輩外国人が同じ国出身の外国人を支援するなど、同郷の外国人同士が助け合える仕組みをつくる。
 - ・日本でのビジネス習慣を外国人に伝える機会をつくる。
- **高齢者・子ども・外国人等の地域共生**
 - ・世代の差や国籍の差などを越えた過こしやすい地域社会をつくる。
 - ・高齢者や外国人にも対応した地域コミュニケーションの充実。
 - ・外国人の流入が多いことをチャンスにするため外国人との共栄戦略。
 - ・料理を通じた外国人との文化交流。
 - ・プログラミングカフェで世代を超えてプログラミングを通じたコミュニティづくり。
- **地域共生を支える場やサポート体制づくり**
 - ・町会掲示板の電子化。災害情報や行政情報を効果的に発信できる。
 - ・町会の高齢化などで地域のイベントが減っているため、そのような地域を活性化する役割を担うことができるファシリテーターを増やす。
 - ・地域の人達とまちづくりについて話せる場がほしい。
 - ・松戸市は市民活動が多いことを強みに、分野を超えたマッチングをさらに進める。
 - ・ボランティアや市民活動への企業やクラウドファンディングによる支援の充実。
- **技術活用による少子高齢化に対応したきめ細かな公共サービス**
 - ・各種申請や投票などの電子化を進めるなど行政サービスの効率化。
 - ・AIロボットを採用し、個々の細やかなニーズに応える。
- **次世代への財政負担の軽減**
 - ・新たな都市整備が次世代や弱者の負担にならないように。

子育て・教育・文化

- **子どもの居場所づくり**
 - ・放課後の子どもの居場所を増やしてほしい。
 - ・子どもがのびのびと遊べる場所を確保するため、地域の理解の促進や公共施設、児童館等の充実を図る。
 - ・学校を開放して利用できるようなするなど、子どもが安全に遊べる環境づくり。
- **地域全体での子育て**
 - ・地域の高齢者に協力してもらい、保護者の代わりに子どもの面倒を見てもらえるようにする。
 - ・子育て家庭とお手伝いしたい人とのマッチングアプリをつくる。
 - ・農業体験や食育講座などの体験型の学びの機会を提供する。
 - ・市内の農家から給食の食材を受け入れる仕組み。

子育て・教育・文化（つづき）

- **子育てと就労の両立実現のためのサポート提供**
 - ・保育士手当をパートにも拡充。
- **自然の中での子どもの遊び場**
 - ・子どもが近くで安心して遊べる場所がほしい。思い切り遊べる公園を増やしてほしい。
 - ・緑や自然の中での子育て環境づくり。
- **子育てしやすい企業・職場や環境づくり**
 - ・子連れで出勤できる職場を増やす。
 - ・テレワークを企業で導入しやすいように支援する。
 - ・職場保育所整備を整備するための助成やモデル事業所の認定。
 - ・ダブルワーク、子育てや介護をしつつ働きやすい環境づくり、働き方改革を支援する。
 - ・駅前保育施設の充実。
 - ・待機児童ゼロのために保育所、保育士を増やす。
 - ・兄弟姉妹が同一の保育所に入れるようにする。
 - ・5月以降の待機児童の解消。
- **子どもの医療環境の充実**
 - ・子ども医療費助成制度の対象を高校生にまで広げてほしい。
 - ・子ども医療費助成制度などの子育て支援を引き続き継続するための財源確保。
- **「働く」ということや「結婚・子育て」に関する教育**
 - ・通常の教科以外に、結婚や子育て、対人関係などのコミュニケーション等、人との関わり方や生き方を子ども達に教えてほしい。
 - ・働くこと、仕事について学校で学ぶ機会を増やす。
- **収入格差による教育格差の解消**
 - ・経済的な事情によらず教育を受けられるような経済的支援。
- **国際化・多様化に合わせた教育環境の整備**
 - ・さまざまな多様性に合わせた教育環境の整備。
 - ・国際社会に対応できる教育の提供。
 - ・IT教育の拡充。
 - ・AIやデータ分析技術を活用して、各個人に適切な教育コンテンツを提供する。
 - ・成績等の教育に関するデータのビッグデータ化。
 - ・外国人生徒向けに学校での配布物などの多言語化を進める。
 - ・日本語学校と市が連携して、ホームステイなどを企画する。
 - ・外国人の親に対するサポートの充実。
- **学校施設のユニバーサルデザイン**
 - ・車椅子を使う児童生徒が学びやすいようユニバーサルデザインの取り組みを進めることで、病气や障害が理由で教育が途切れないようにしてほしい。
- **新しいカルチャーやアートの活性化**
 - ・21世紀の森と広場をコスプレやアートの場所にして文化を活性化させる。
 - ・プログラミングを教育の充実。
- **市内大学と連携した社会人教育の充実**
 - ・松戸市内の大学と連携し、社会人向け等さまざまな対象への講義を充実する。
 - ・松戸市にある4つの大学の専門性をいかして（園芸、歯科、政経、子ども）、専門性の高い教育環境を強化する。

いきいきとした暮らし

- **高齢者が働いたり地域で活躍できる街**
 - ・高齢でも元気で長く働けるようになりたい。高齢者が働き続ける仕組みづくりを。
 - ・ワークシェアを推進して、高齢者にも労働の機会を提供するとともに、現役世代にも時間的余裕を持たせる。
 - ・高齢者が就職しやすい仕組みづくりとして事業者と高齢者の仲介を行う。
 - ・コンビニ、ショッピングセンターなど、高齢者を雇用できる場所を増やす。
 - ・高齢者が働いたり、楽しめる居場所の拡充。
 - ・老後の余暇趣味を楽しむための市民農園などの場づくり。
- **健康寿命を延ばすための取組み**
 - ・健康寿命を延ばすために、高齢者が定期的に運動できる機会とそれを担当する担い手の創出。
 - ・健康診断の受診を促進。予防医療や早期治療を支援する。
 - ・高齢者や子どものためのスポーツ場・公園の拡充。
 - ・高齢者の外出や移動をサポートする。
- **ひとり暮らし高齢者でも安心して住める街**
 - ・老後を安心して暮らせる街にしてほしい。
 - ・単身世帯のサポート体制の強化。
 - ・街なかのバリアフリー化の強化。
- **認知症患者を地域で支えられる街**
 - ・認知症の人を孤立化させず、安心して地域で支えるようにしたい。
 - ・お店にシールを貼るなど、認知症の方や障害を持つ方を受け入れる意思を提示する。
 - ・成年後見人になれる人の育成。
 - ・世代を越えたつながりを作るサークルやグループを支援する。
- **介護やダブルケアのサポートの充実**
 - ・障害者・高齢者のための介護施設の拡充。
 - ・ダブルケアの相談や支援のためのワンストップ窓口。
- **介護人材の賃金アップや地位向上**
 - ・介護職が安心して働ける環境づくり
 - ・介護職の賃金アップや地位向上で若手人材を確保する。
 - ・松戸手当の介護版の仕組みづくり、介護人材の確保や創出の支援をする。
 - ・介護人材育成のための講座を提供する。
 - ・介護施設新規設置者への補助制度の検討。
- **病院やクリニック、救急医療の充実**
 - ・かかりつけ医がいることを当たり前にする。
 - ・困っているときにどんな環境の人でも救急車が利用でき、救急医療が受けられるようにしてほしい。
 - ・救急外来や病院を増やしてほしい。
 - ・高齢者・障害者への医療支援体制の強化をする。
 - ・在宅医療を充実させる。
- **多様な医療・介護ニーズへの対応**
 - ・言語・文化・障害など、医療・介護に関する多様化するニーズへの対応。
- **高齢者のITリテラシーの向上支援**
 - ・高齢者が必要なITリテラシーを身につけられるよう講座等を実施。
- **終末期の暮らしやお墓の管理など死後の安心**
 - ・老後、終末の暮らしを選択できる場づくり。
 - ・お墓の管理など死後の心配をしなくてもすむような合同墓等の仕組み。

ベースシナリオ分析：2030年における松戸市のニーズと戦略オプション（ワークショップでの意見まとめ）

街の魅力や居心地

■若い世代に選ばれる街・魅力的な街

- ・若い人にとって魅力的な街に。
- ・高齢者や子育て世帯向け等に合わせた住まい。
- ・コンパクトシティ。都市機能が集約し、移動が少なく、近くになんでもある街。

■高齢者に選ばれる街・住環境

- ・高齢者にも住みやすい高機能マンションを増やす。
- ・高齢者が楽しめるスポーツ場や公園の拡充。
- ・さまざまなスタイルに対応できる住居を増やす。

■居心地が良く、歩きたくなる街なか

- ・歩くのが楽しい街に。
- ・道路幅が狭い所、舗装がはがれてガタガタな道を直してほしい。
- ・歩道の拡幅や段差の解消などのバリアフリー化。
- ・駅・病院等への公共交通ネットワークを充実させる。
- ・移動しやすいルートなど、車椅子用、外国人用などの市内の経路マップ。
- ・自転車専用レーンを整備する。

■個性的な飲食店等の集まる街

- ・様々な飲食店が増えてほしい。
- ・新規で出店する人への支援の拡充。

■空き家の魅力的な活用

- ・空き家をどうにかしたい、空き家を使いたい。
- ・空き家を芸術家などに貸し出す仕組みをつくる。
- ・空き家の登録、遺贈や破棄ができる仕組みを整える。
- ・空き家の所有者と買手をつなげる空き家バンクの仕組みづくり。
- ・空き家をシェアハウスにして、若い人や世界からのアーティストに住んでもらう街。
- ・空き家や効果的な売上が見込めるよう空き家活用の支援をする
- ・古民家などの空き家スペースを活用してカフェをオープンする人を支援することで、街を活性化させ、人が出かけたくなる街づくりを。

■公共空間のリノベーションやマネジメント

- ・今ある老朽化した施設を直すだけでなく魅力的なものに作り変える。図書館、健康公園、じゃぶじゃぶ池、ちびっこ遊具の公園など。
- ・公園・図書館のリノベーション。多様な人が集まれる場所をつくる。
- ・パークマネジメントを充実させ、市外から人が集まれるようにする。

■市内の緑の保全・緑化

- ・自然豊かで、きれいな街に。市内のみどりの保全。・桜並木を維持する。
- ・公園の充実。
- ・休耕農地の活用。例えば高齢者に貸すことで生きがいづくりに活用する。

■デマンド型公共交通などによる誰もが移動しやすい街

- ・パークアンドライドの仕組み。
- ・交通が便利になり、行きたいところに行けるような街に。
- ・高齢化が進むことにより、現在では実現できていない短距離の移動など個人の状況に対応できる移動手段の実現。
- ・松戸市を超えた移動をより便利にするため、近隣市町村と連携した街づくり。
- ・交通渋滞を緩和し、街の中を便利に移動できるようにしたい。
- ・コミュニティバスの範囲拡大やデマンドバスなどのデマンド型交通の提供。

地域経済・働き方

■市内で多様な働き方ができる環境

- ・家の近くで働きたい。
- ・若年、早期退職者を減らしたい。
- ・高齢化が進み高齢者人口が増える状況を、高齢者自身にも企業にも、雇用や新しい事業のチャンスにしたい。
- ・高齢者や女性にとって働きやすい雇用の場づくり。
- ・テレワーク、在宅での勤務を企業が導入しやすいように支援する。
- ・職場には大事なことだけ来て、簡単なものは在宅ワークなど、テレワークが可能な職場づくり。
- ・業務を整理し、分担を検討することで在宅ワークを推進する。
- ・ワークシェアなどの新しい仕組みを使ってみんなで一緒に仕事量を減らす。
- ・VRを活用したシェアオフィスの整備。
- ・最新技術の導入への補助。
- ・起業したい人への支援等を拡充する。女性やセカンドライフ等の起業のサポートを充実させる。
- ・通勤専用の自動運転タクシーサービスの導入。
- ・歩き通勤者を採用した企業への補助金制度を作る。

■子育てしやすい働き方

- ・子どもがいても働きやすい環境づくり。
- ・子育てでサポートのできるシニア人材を育成する。
- ・子どもを職場に連れていけるような仕組みをつくる。

■介護しながら働ける環境

- ・介護負担を減らすことで、介護をしながらでも働けるように。
- ・ダブルケアによる離職率増加への対策。

■商工業の経営支援・企業誘致

- ・サテライトオフィスを充実させる。

■企業やクリエイティブ層の集まる街

- ・クリエイティブな人材を育てる街、クリエイティブな人たちが集まる街に。
- ・魅力的な仕事、働く場がほしい。
- ・起業支援の充実。
- ・市内で働けるよう企業の誘致。松戸市としての誘致テーマを策定する。
- ・若手系経営者が、横のつながりをさらに強化できるように支援する。
- ・地域クラウドファンディングを立ち上げる。
- ・大小の病院が多いことを活かし、医療系ベンチャーを誘致し、医療と研究をつなぎ産業の活性化につなげる。

■松戸産農産物の流通促進・新規開発

- ・松戸産の農産物をもっと市内に流通させたい。
- ・バイナッブル等、温暖化に適した新しい松戸ブランド農産物をつくりたい。
- ・農業の維持を目指して、松戸でとれる農産物の地産地消の促進やブランド化の取り組みを行う。
- ・若手農業従事者が活躍している情報を発信する。
- ・遊休農地の有効活用をする。

安全・安心・快適な暮らし

■再生可能エネルギー利用の推進

- ・雨水タンクコンポストや太陽光発電の利用促進。
- ・「環境推進都市まつど」として、太陽光発電などの身近な再生エネルギーの利用を促進する。

■ごみ分別の煩雑さの解消

- ・焼却施設の整備。
- ・面倒なごみ分別が簡単になるとよい。

■地域ごとのきめ細かい自然災害対策

- ・避難計画の整備などの防災のためのガイドラインの整備。
- ・地域毎のリスクに合わせた風水害対策をしてほしい。
- ・河川の氾濫のリスクが高いエリアを中心に「もしも」の時の為の講座を開いてほしい。
- ・自然災害が起きた場合を想定した空き家の安全対策を進めてほしい。
- ・河川などのインフラの防災対策の強化。
- ・水害対策用の避難所を充実させる。
- ・インフラの計画的な予防修繕と更新。

■外国人や高齢者のための災害時避難対策

- ・外国人、高齢者に対応した災害対応。
- ・外国人向けの的確に案内ができるなどの避難所運営ができるようにする。
- ・外国人向けの避難案内の多言語化。
- ・災害対応計画、物資、備品などを外国人や高齢者対応にする。
- ・外国人や高齢者に防災啓発・防災訓練を行う。

■子どもの防犯対策の充実

- ・子どもの安全対策のために各地域の防犯システムを充実。

■治安の維持向上

- ・多文化が進んでも、安心できる治安を確保する。
- ・犯罪が少ない安全な街にしてほしい。

■新技術を活用した防犯・防災対策

- ・最新の技術を用いた防犯システムを導入する。早く導入することで防犯のイメージアップ。
- ・AI、デジタルシステムを活用した情報発信の整備や、緊急対応策の導入。
- ・市民を災害、犯罪から守るツールを導入すると同時に、それが確実に機能、普及するような運営体制も強化する。

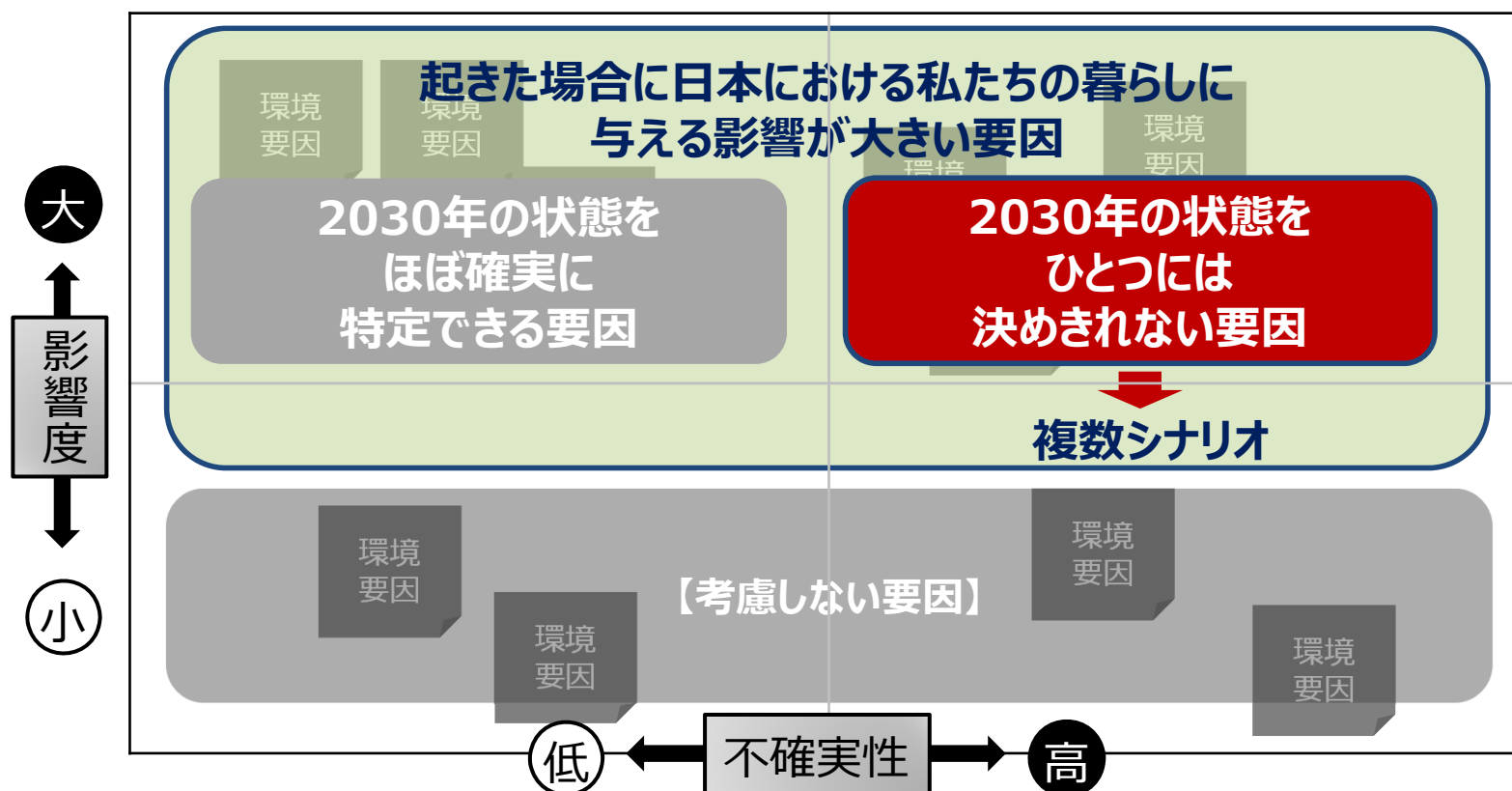
■地域の防災力・防犯力の向上のためのサポート

- ・防災のための組織を地域で自主的に運営できるようなガイドラインや仕組み。
- ・市民が住んでいる地域コミュニティごとに、非常時における対策や防犯を強化。
- ・避難所自体の充実や立地条件などの見直しを行ってほしい。
- ・消防団員の増。費用助成の充実、学生消防団等消防団員を増加させる。
- ・防災訓練の種類（地震、風水害、停電等）や質を高める支援をする。
- ・防災、防犯対策のために、地域のネットワークを強化する。
- ・自治会や住民による見回りをするなど独居高齢者を把握できる仕組みづくり。

3-4 複数シナリオ

2030年の日本において起きるかどうかは不確定だが、もし起きたときに私たちの暮らしに大きな影響を与える外部環境要因を2つ選び、複数シナリオを作成する。

- ・ 不確定な外部環境要因から2つの要因を選び、両極端な実現可能性を考える。
- ・ 複数シナリオでは、予測を踏まえて「想定外」の世界を想定して、起こり得る複数の未来を表現する。



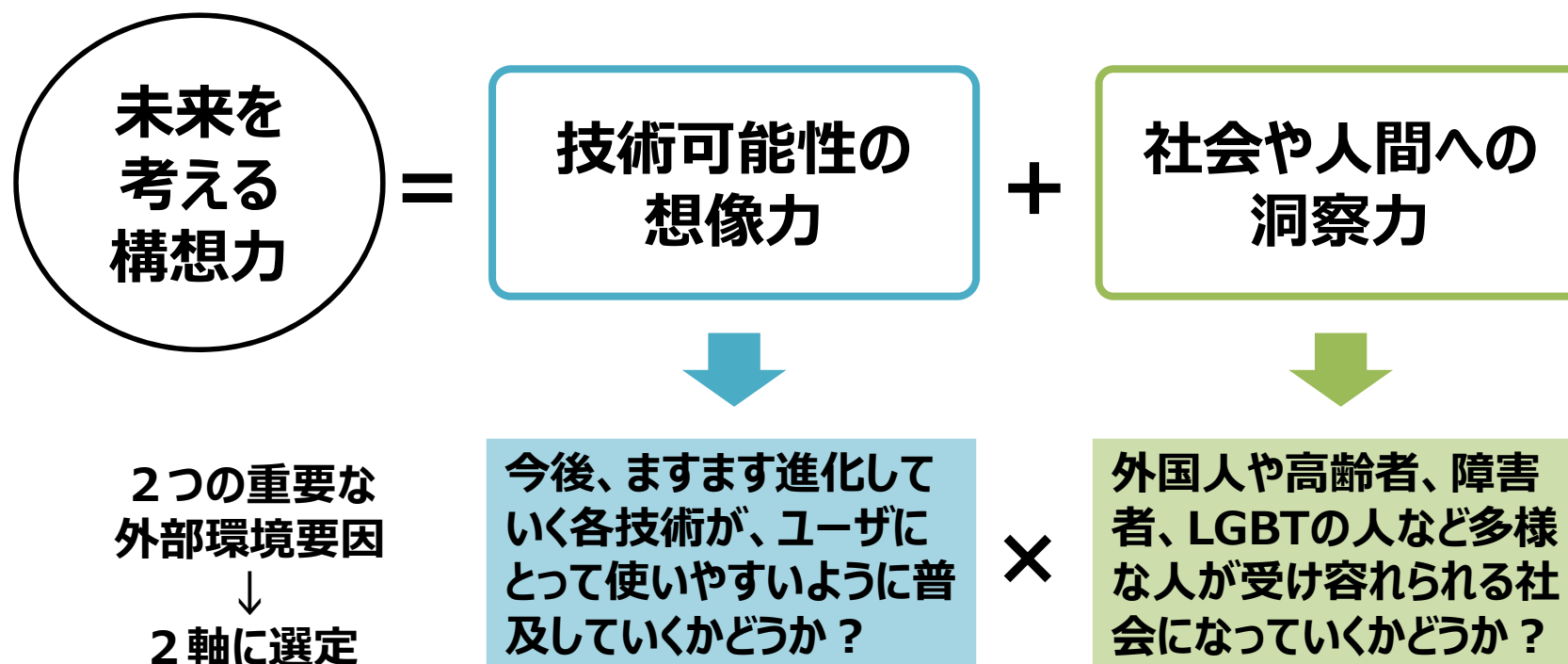
(再掲) 2030年の日本における私たちの暮らしに影響を与える外部環境要因

	不確実な外部環境要因（ワークショップでの意見まとめ）
社会	大規模災害、宗教の多様化、テレワークの普及、遠隔医療完全導入、震災の発生、食糧難、平均寿命90歳、地震、治安悪化、世界的な人口移動、消費のシェア、認知症・感染症の増加、戦争・テロ、週休3日、富の二極化、価値観の多様化、パーソナルデータの提供、失業者の増加、外国人への介護の必要性増加、LGBTQが広がる、外国人移民の増加
技術	AI等の技術進化、知的AI、仮想現実・拡張現実、AI・ロボット普及、医療ID導入、知的な人工知能の普及、再生医療普及、ロボットの普及、宇宙産業の進展、遺伝子操作、公立学校の教科書デジタル化
経済	仮想通貨の日常利用、増税、シェアエコノミー、定年延長、為替の変動、ふるさと納税の増加、中小企業減少、生産性向上、観光人口増加、非正規雇用増加（多様な働き方が当たり前になる）、テレワークの発展
環境	天然資源減少、自然エネルギーへの転換、温暖化による海面上昇、食品ロス、賃金低下、二酸化炭素削減目標の達成、水素社会、資源をめぐる紛争、気温上昇
政治	税金負担増、自由貿易、教育制度改革、教育無償化、社会保険破綻、ベーシックインカム、消費税増税、自治体の消滅、移民受入れ、米中の圧力、憲法改正、マイナンバーカードの普及

2軸の選定

複数シナリオ（案）の軸選定の考え方

- 未来を構想するための考え方（下図）を元にして、今回の会議で出された不確実な要因から2軸を選択。



未来への分岐点（軸の考え方）

横軸「新技術の普及状況」について

- 通信（5G）や人工知能（AI）などの技術をはじめ、それらを組み合わせたIoTや自動運転などの個々の技術進化は2030年に向けて進んでいくと予想できます。
- しかし、新技術が普及するためには、複数の技術が統合・連携され、また活用のための規制緩和等の制度整備が進むかどうか？また、それらのサービスがとって使い勝手が良く、日常的に利用できるコストであるなど、生活者にとって利便性があるかどうかは未来の分岐点です。

← 2030年、新技術はどれくらい普及しているだろうか？ →

【新技術が限定的に普及している未来】

個々の技術は進んでいるものの、サービス連携は十分に進まず、地域によって制度整備が進まず新技術への規制が残っており、限定的な活用に留まっている。また、生活者にとっても使い勝手が良くなく、利用コストもメリットに見合わないため、新技術が広く普及していない。

【新技術が幅広く普及している未来】

個々の技術を活かすため企業間のサービス連携や、国・自治体の制度整備が進んでおり、つなぎ目のないサービス提供が実現されている。また、これらのサービスは、生活者にとって使いやすく、利用コストもメリットに見合ったものとなっていることで、新技術を使った様々なサービスが広く普及し日常生活で活用されている。

2軸の松戸市における意義

- 少子高齢化に関連する課題に対して、新技術の活用可能性の検討が求められていることに加え、現在、松戸市では、コンテンツ産業の振興や小中学生向けプログラミング教室などの取組みを積極的に行っていることから、今後、様々な新技術の活用・普及状況を注視することが重要。

未来への分岐点（軸の考え方）

縦軸「多様性の受容度」について

- 男女の違いだけでなく、高齢者、障害者、外国人、LGBTなど、年齢や身体的な状態、国籍、志向などの幅広い観点から、社会制度面だけでなく、暮らしの中で多様性が尊重され、あらゆる人にとって暮らしやすい社会になっているかどうか？
- また、働き方など日々の行動についても、多様な考え方や選択が制度として認められているだけでなく、それぞれのライフステージによって最適な選択をしやすい社会になっているかどうかは未来の分岐点です。

← 2030年、多様性は受け入れられているだろうか？ →

【多様性が限定的に受け入れられている未来】

個人の属性や考え方・選択の違いを尊重するための制度や仕組みは整っているものの、実際の暮らしではその選択が尊重されにくく、制度も活用しにくい状況が残っている。

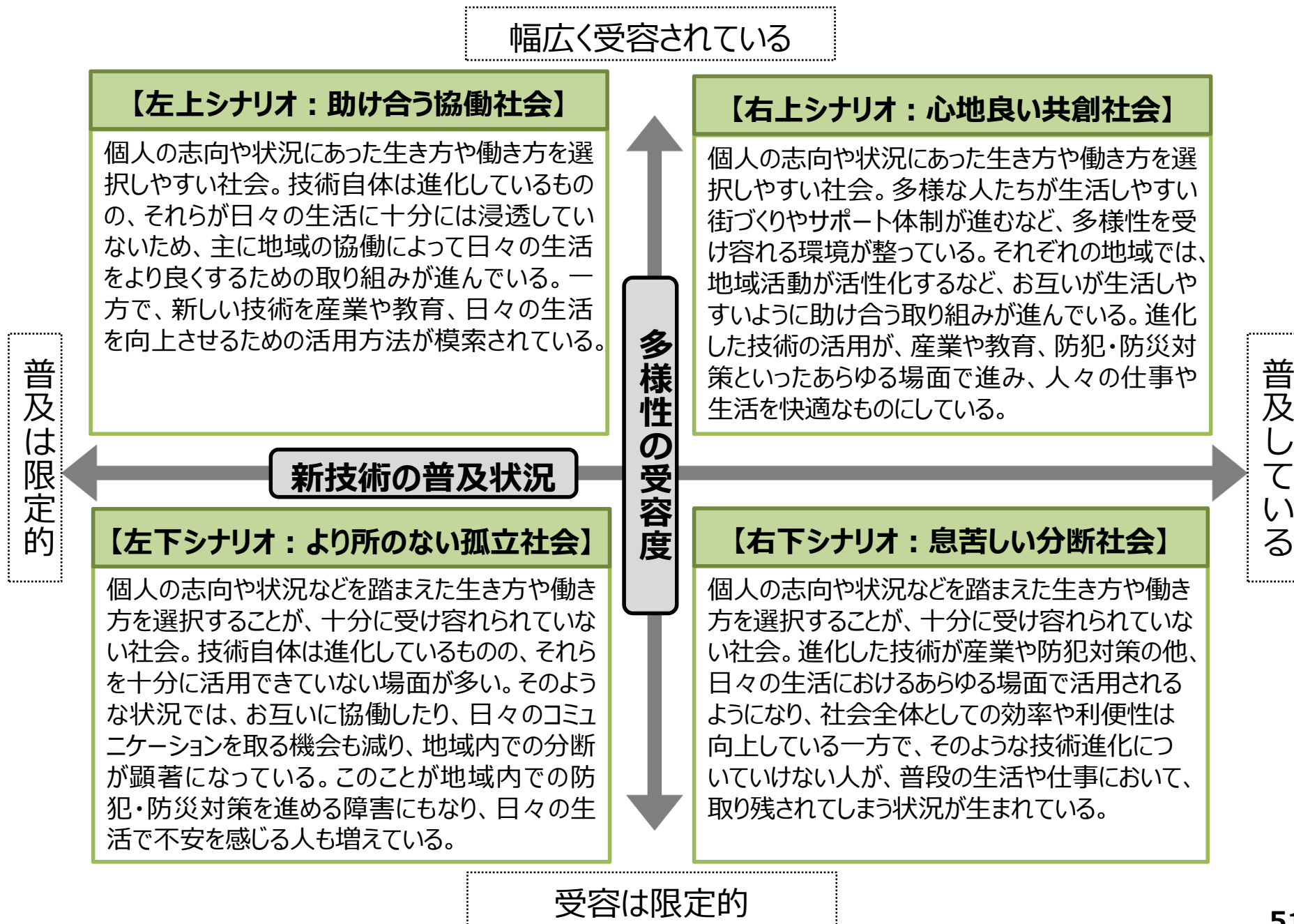
【多様性が幅広く受け入れられている未来】

個人の属性や考え方・選択の違いに関わらず、あらゆる人が暮らしやすい制度や仕組みが整備されており、それが幅広く受け入れられており、それぞれの人の状況に応じた選択をしやすい社会になっている。

2軸の松戸市における意義

- 松戸市においても少子高齢化が進んでいるが、一方で外国人市民の数は増加傾向にある。そのような中、高齢者を中心にしたサポートとしての地域共生社会の実現や、多文化共生に関する取り組み、新たな人権課題に関する取り組みを進めており、今後、多様性の受容に関する状況を注視することは重要。

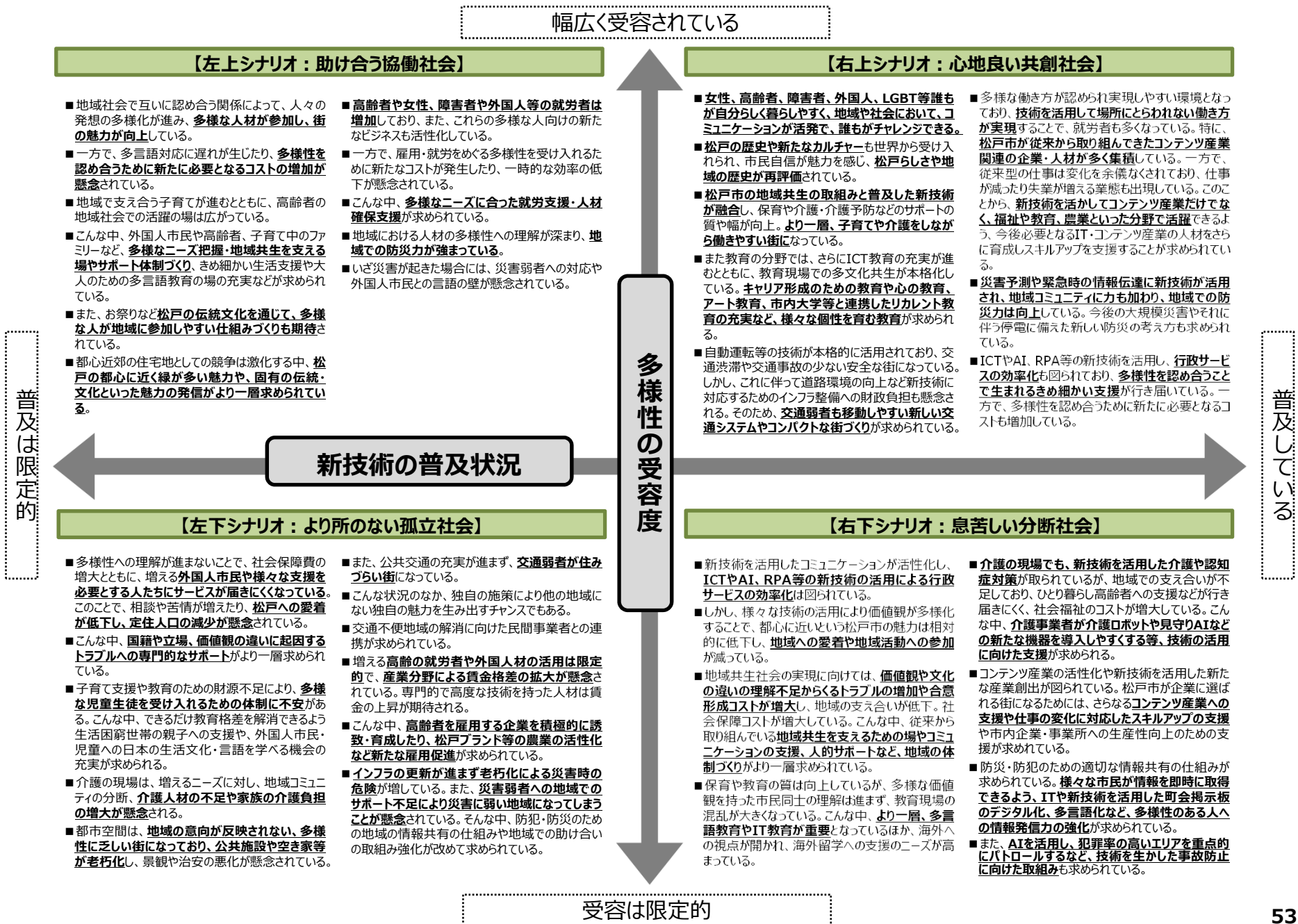
『2030年の日本における私たちの暮らし』複数シナリオ



複数シナリオのタイトル (ワークショップでの意見まとめ)



複数シナリオ分析【概要】（ワークショップでの意見まとめ）



複数シナリオ分析【右上シナリオ：心地良い共創社会】：松戸市のチャンス・リスク・ニーズと戦略オプション（ワークショップでの意見まとめ）

人にやさしいまち・共生・持続可能性

- 誰もが自分らしく暮らしやすい社会（女性、高齢者、障害者、外国人、LGBT等）
- コミュニケーションが活発で、誰もがチャレンジできる社会
- 多文化共生による街の魅力向上
- 家事のIoT化や自動化による家庭内の男女共同参画推進
- ICTやAI、RPA等の新技術の活用による行政サービスの効率化
- 多様性を認め合うことで生まれるきめ細かい支援
- 多様性を認め合うために新たに必要となるコストの増加
- 行き過ぎた情報社会への対応

■多様性について相互に理解を深める機会

- ・外国人だけでなく、世代間・性別間の多様性や価値観の違いについて理解を深める交流や学習の機会。
- ・コミュニケーションが苦手な人でも、自己表現ができるようなツール。
- ・多様性に関する理解促進のための施策を大学や民間と連携し進める。
- ・多様性に関する理解促進のためにフューチャーセンターを活用。

■多国籍の人とのコミュニケーションツールの活用

- ・さまざまな国籍の人とコミュニケーションを取るための自動翻訳機等のツールの活用。

■様々な宗教に対応した場づくり

- ・お祈りする場所などの宗教施設が必要。

■プライバシーを確保したコミュニティ

- ・人とリアルにつながりたいが、プライバシーは守りたい。

子育て・教育・文化

- 地域コミュニティと新技術の活用による保育の質の向上
- 地域コミュニティと新技術を活用した教育の質や幅の向上
- 子育てしやすい働き方の普及
- 松戸らしさや地域の歴史の再評価

■ICTやAIなど新技術の導入による教育現場の混乱

- 技術依存が進むことによる学習の軽視

■キャリア形成のための教育

- ・単純作業はAIが担う世界。子どもの頃からのキャリア形成と技術の習得が重要。
- ・AIだけに頼らない自分で考え判断できる教育を。
- ・多様性を受容する社会がゆえに専門技術を修練する場が求められる。

■心の教育の充実

- ・心を育む教育、充実した道徳教育が重要。

■ICT教育の充実

- ・教育のICT化、先生のICT教育。指導できる専門家を教員として採用、または、企業との連携によるIT教育の強化。
- ・多言語に対応するタブレットを授業に導入。学校や保育所で多様な児童・生徒を受け入れるために、ITを活用できるようにする。
- ・新技術を生み出すスペシャリストを育成するための教育環境の整備。

子育て・教育・文化（つづき）

■教育の多様化

- ・フリースクール、学校に行かなくても学べるオンライン教育、選択制の学校の充実など、教育の多様化に向けた施策の検討。
- ・大人になってから高校の授業を受け直したい等、学びのニーズの多様化に対応。
- ・アート教育の充実。表現力、発想力、コンセプトを考える力を育てる。

■保育・教育現場での多文化共生

- ・教科書や学校での配布物の多言語化。
- ・多様性のある子どもの保育事故を予防する。
- ・学校・病院などでハラールなどの宗教食を提供する。
- ・多様性・多文化・異文化の理解を促進する教育プログラム。異文化に関する勉強会、学習教室を開催。

■リカレント教育の充実

- ・大人に対して新技術の習得を支援してほしい。
- ・多様な学び直しニーズへの対応・支援。みんなが集まる図書館にリノベーション。

いきいきとした暮らし

■医療技術の進歩による健康寿命の延伸

■元気な高齢者の増加

■多様な社会参加のチャンネル

■技術依存が進むことによる学習の軽視

■多様な対象に対するデジタルデバインドへの対応コストの増加

■多様な生き方へのサポート

- ・ひとりひとりの自分らしい生き方を支援する、きめ細かい支援。
- ・市が開設しているさまざまな窓口の存在についての情報発信の強化

■新技術を活用したひとり暮らし高齢者への支援

- ・ひとり暮らしの高齢者などへ情報通信技術などを使ってサポートする。

街の魅力や居心地

■自動運転等の普及による交通事故の減少や渋滞解消

■新技術の活用による空き家活用の促進

■公共交通の維持やインフラ老朽化に加え、新技術対応の必要性による財政負担の増大

■テレワーク等の働き方が普及することで都心に近いという松戸市の魅力が低下する懸念

■誰もが移動しやすい街

- ・どのような人にとっても利用しやすく、移動しやすい交通システムを実現してほしい。
- ・技術進化に伴う公共交通システム整備の検討。
- ・移動に時間がからない、コンパクトなまちづくり。

■地域活動にもっと参加したい

- ・仕事時間が技術により減る分、空いた時間を地域活動等に活かしたい。

■松戸の伝統や独自の魅力の発信

- ・芸術イベントや祭りを増やす。
- ・「クリエイティブシティ」などのキャッチフレーズで松戸の伝統や魅力を発信。

■多様性に配慮した街なか（バリアフリー・公共サイン等）

- ・多様性を配慮したバリアフリー化、公共サイン、専門職の配置などの対応。

【右上シナリオ：心地良い共創社会】

～こんな世界～

個人の志向や状況にあった生き方や働き方を選択しやすい社会。多様な人たちが生活しやすい街づくりやサポート体制が進むなど、多様性を受け容れる環境が整っている。それぞれの地域では、地域活動が活性化するなど、お互いが生活しやすいように助け合う取り組みが進んでいる。進化した技術の活用が、産業や教育、防犯・防災対策といったあらゆる場面で進み、人々の仕事や生活を快適なものにしている。

地域経済・働き方

- 誰もが自分らしく働ける社会・技術進化による職業機会の増大
- 場所にとられない働き方による労働力の確保
- 地域や自宅でも働ける働き方
- 高齢者が働きやすい環境整備
- ダブルケアでの離職の解消
- コンテンツ産業の成長が加速
- 技術革新による農業の活性化
- 新技術の活用による雇用の減少や仕事の変化
- 都心に近いという松戸市の強みが低下し、働き手が不足
- 農業経営の格差拡大
- 宅地の需要増による工業等産業用地の不足
- 障がい者、外国人、高齢者の就職支援
- ・障がい者、外国人、高齢者の就職支援
- 新技術の出現による仕事の変化に対応したスキルアップの支援
- ・これまでと違う仕事に就職するためのスキルを身につけられる機会。
- 新技術を活用した農業への支援
- ・農業経営に活用できる最新技術の情報を知りたい。

安全・安心・快適な暮らし

- 再生エネルギー利用の促進
- ごみ分別の効率化
- 新技術を活用した多様なニーズにも対応可能な防災・防犯対策
- 地域の防災が進み災害時はコミュニティでの対応がしやすくなる
- ごみ分別や処理の課題
- 技術に依存した生活のため災害時の対応力が弱くなる
- 停電など新技術が使えない場面を想定した防災対策
- ・停電などを想定して、技術が活用できない場面を想定した防災対策。
- ・個人情報管理・活用を踏まえた災害時のリスク対応。
- インターネットを悪用した犯罪への対応強化
- ・サイバー犯罪対策として、ネットパトロールや被害者への救済措置の強化。

複数シナリオ分析【右下シナリオ：息苦しい分断社会】：松戸市のチャンス・リスク・ニーズと戦略オプション（ワークショップでの意見まとめ）

人にやさしいまち・共生・持続可能性

- 新技術を活用したコミュニケーションの活性化
- ICTやAI、RPA等の新技術の活用による行政サービスの効率化
- 都心に近いという松戸市の魅力の低下
- 松戸への愛着の低下・定住人口の減少
- 地域の支え合いが低下し社会保障コストが増大
- 価値観や文化の違いの理解不足からくるトラブルの増加や合意形成コストの増大
- インターネット依存の問題やデジタルデバイドの拡大
- 行き過ぎた社会の情報化に伴うコスト増
- 多様性について相互に理解を深める機会やサービス
 - ・国籍や価値観などの違いについて正しい知識を持つ人が増えてほしい。
 - ・多様性の受容や理解を促進させるサポートビジネス。
 - ・さまざまな文化や価値観の人が共存できるような情報の提供。
 - ・交流が減って消えていく文化を残す支援。
- 外国人やLGBTQなどが集まる場
 - ・外国人やLGBTQの集いの場。
 - ・同一の問題を抱える人たちや同一の環境の人たちのためのコミュニティづくり。
- 支援が必要な人たちが自分らしく生きられる環境
 - ・高齢者や支援が必要な人たちが自分らしく生きられる環境。
 - ・多様な人への対応ができるようきめ細かくニーズを把握してほしい。
- 地域共生を支える場やサポート体制づくり
 - ・地域内の人のつながりを増やすため、お互いが対話するための場づくり。
 - ・地域内のつながりを推進する人の育成や認定制度。
 - ・多様な住民によるトラブル時に間に入ってくれるような人、役割の存在。
 - ・同じ考え、境遇の人達が繋がる機会。
 - ・世代・文化を越えた交流や学習機会を推進する
 - ・異なる文化的な慣習を持つ人などのニーズに特化した居住区を作る。
 - ・孤立しそうな人々が集まりやすい場所や機会をつくる。
 - ・小さいコミュニティで集まれる場をつくる
 - ・コミュニティのためのカフェ・サロン。
 - ・大人も子ども楽しめるスポーツ施設、若年層やファミリーが地域で楽しめる広場。
- 誰にでも使いやすいITサービスの普及
 - ・高齢者でも使用可能なITサービスの支援。
 - ・進化する技術の活用が苦手なIT弱者向けの講習会。
 - ・インターネットの依存症対策の教育や支援。

子育て・教育・文化

- 新技術を活用した保育の質の向上
- 新技術を活用した教育の質や幅の向上
- 価値観の違いによるいじめ問題の拡大
- 日本人も外国人もさらに子育てしやすい街に
 - ・子育てと就労の両立実現のためのサポート提供。
 - ・若年層やファミリー層を外から呼び込むための施策をうつ。
- 教育の多様化
 - ・ネットスクール系ビジネスの誘致。
 - ・外国人向けの教育機会を提供する。
- 多国籍の人とコミュニケーション取れるツールや外国語教育
 - ・誰でもどこでも使える通訳ツールの普及・活用。
 - ・日本人向け、外国人向けの外国語教育の充実。
- IT教育の推進
 - ・大人向けIT教育の推進。
 - ・インターネット上のモラルやリテラシーの教育。
 - ・技術についていけない人たちの学ぶ場をつくる。
 - ・AI社会や新技術の使い方やリスクについて教育を行う。
- 世界に向けてチャンレンジする子どもへの支援
 - ・閉鎖的な日本を抜け出し、世界へのチャレンジを支援してほしい。
 - ・海外留学を支援をする。

いきいきとした暮らし

- 新技術を活用した介護サービスの充実
- 新技術を活用した認知症対策の充実
- 新技術を活用したリアルな場以外のコミュニケーション機会
- 地域での支え合いが不足することによる社会保障コストの増大
- 高齢者等へのデジタルデバイスへの対応コストの増加
- ひとり暮らし高齢者への支援
 - ・ひとり暮らし高齢者の見守りシステムの強化
 - ・ひとり暮らし高齢者へのIT機器の操作方法のサポート。
- AI等を活用した高齢者の生活支援
 - ・高齢者の移動手段を増やす。
 - ・高齢者が生活しやすい環境の充実。
 - ・新技術の活用方法等を情報提供する、高齢者向けの講座。
 - ・高齢者の話し相手やひきこもり予防、資産運用を支援するAI家族。
- 介護に関する新技術の活用支援
 - ・介護関連の新技術を地域の介護サービス会社が活用できるように支援してほしい。
 - ・介護サービス支援技術の導入や利用促進のための助成。

【右下シナリオ：息苦しい分断社会】 ～こんな世界～

個人の志向や状況などを踏まえた生き方や働き方を選択することが、十分に受け容れられていない社会。進化した技術が産業や防犯対策の他、日々の生活におけるあらゆる場面で活用されるようになり、社会全体としての効率や利便性は向上している一方で、そのような技術進化についていけない人が、普段の生活や仕事において、取り残されてしまう状況が生まれている。

街の魅力や居心地

- 都心に近い立地による人口の維持
- 自動運転等の普及による交通事故の減少や渋滞解消
- 商業の衰退や買い物難民の増加
- 都心に近いという松戸市の魅力の低下
- 多様な人が住みやすい住環境
 - ・テレワーク等で日中の人口が増えるため日中住みやすい住環境がますます大切。
 - ・多様な人々が住みやすい住環境やコミュニティづくり。
- 松戸らしさや地元への愛着
 - ・人との関わりと地元への愛情は持っていたい。
 - ・松戸の独自性を出したい。松戸らしさの提示。松戸ブランドの形成。
 - ・街の魅力の掘り起こし。

地域経済・働き方

- 新技術を活用した仕事の効率化
- 技術の後押しによる高齢者の就業率の向上
- 多様な働き方による昼間人口の増加
- 新技術を活用した工業の活性化
- コンテンツ産業などIT産業の活性化
- 技術革新による農業の活性化
- 新技術の活用による雇用の減少
- 高度IT人材の不足
- イノベーションが起きにくい社会
- eコマースの拡大による市内商業の停滞
- リモートワーク機会の増加による公共交通の利用者の減少
- 農業従事者の減少
- 都心に近いという松戸市の競争優位性が低下
- 多様な働き方や立場に対応した職場
 - ・多様な文化や立場の人たちの働き方に対応した職場・住環境が整備される。
- 農業の担い手支援
 - ・農業などの伝統的な産業の担い手を増やすために、さまざまな立場の人にそれらの産業の良さを伝える機会をつくってほしい。
- 新技術の出現による仕事の変化に対応したスキルアップの支援
 - ・これまでと違う職業につくための就職支援。
 - ・業務を合理化できない企業へのアドバイス、マッチング等の支援をする。
- 事業の生産性向上のための新技術の活用支援
 - ・事業者が新技術を使えるように支援する。
 - ・大規模サーバーを置くための冷却施設を作る。
 - ・IT企業の起業支援。
- 文化活動推進のための支援
 - ・コスプレイベント等、魅力的なイベントの企画・発信。

安全・安心・快適な暮らし

- 新技術の活用による多様なニーズに対応可能な防災・防犯対策
- 地域のつながりが希薄化し、犯罪や虐待、孤独の問題が顕在化
- 災害時に地域での多様性に配慮した対応が困難
- 技術に依存した生活のため災害時の対応力が弱くなる
- 新技術の進展についていけず日常生活に支障が出るデジタルデバイド問題
- 地域での助け合いによる防犯強化
 - ・技術だけに頼るのではなく、人を使った見守りが大切。
 - ・地域ぐるみの防犯・防災ができるような施策の実施。
 - ・マンパワーを活用した災害対策ができるよう訓練等、体制。
 - ・災害時要配慮者の把握・支援の拡充。
- 防犯・防災のための適切な情報共有の仕組みの整備
 - ・被災時にきちんと情報が得られて安心できる対応策を。
 - ・個人情報の管理・活用を踏まえた災害時のリスク対応。
 - ・さまざまな市民が情報を即時に取得できるよう、ITや新技術を活用した町会掲示板のデジタル化、および多言語化など、多様性のある人への情報発信力を強化。
 - ・ITリテラシーがない情報弱者への対応。
- 新技術を活用した事故予防・防犯対策
 - ・AIドローンによる防犯パトロール。犯罪率の高いエリアを重点的にパトロール。
 - ・技術を生かした事故防止に向けた取り組み。

複数シナリオ分析【左上シナリオ：助け合う協働社会】：松戸市のチャンス・リスク・ニーズと戦略オプション（ワークショップでの意見まとめ）

人にやさしいまち・共生・持続可能性

- 多様な関係が育む発想の多様化
- 多文化共生による街の魅力向上
- 多様な人材の参加による社会
- 多様性を認め合うために新たに必要となるコストの増加
- 多言語対応の遅れ
- 高齢者や外国人と一緒に働ける環境や意識醸成
 - ・高齢者や外国人と一緒に働く環境や意識の醸成。
- 多様性について相互に理解を深める機会
 - ・多様な価値観を受容するための基礎となる知識や情報を知りたい。
 - ・さまざまな価値観についての理解促進のための情報提供や講座の企画・提供。
 - ・外国人向けの日本語や日本文化講座の企画・提供。
 - ・世代・文化を越えた交流や学習機会づくり。
 - ・多様化に伴う新しいルールづくり。
 - ・様々な宗教に対応した場や仕組みづくり。
- 多様なニーズ把握・地域共生を支える場やサポート体制づくり
 - ・多様な人のニーズを把握し、取りまとめるコミュニティを支える人材がほしい。
 - ・コミュニティを構築したり、イベントを開催するための、場所、資金、人員が欲しい
 - ・ボランティア活動の送り手と受け手のマッチング
 - ・行政のなんでも相談・生活サポートのプラットフォームの構築。
 - ・行政職員に外国人や障害者の採用をさらに進め、よりニーズを把握した施策につなげる。
 - ・多文化が共生する中で、どのような「お互い様」が必要なのか、ニーズを把握し、共助とは何かを再構築する。
 - ・マイナーな言語ができる人の養成。
 - ・空き家を活用して高齢者や外国人が集まれる場づくり。
- 多国籍の人とコミュニケーションを取れるツール
 - ・外国の方ともコミュニケーションを取りやすい街に。
 - ・通訳に関するサービスの充実。
- 外国人市民の生活支援
 - ・外国人が地域に溶け込むまでの過渡期の橋渡し。
 - ・ホームステイ等、外国の方を受け入れについての情報を包括的に発信する。
 - ・外国人向け医療補助、医療通訳の育成。
 - ・医療通訳など有償ボランティア制度。
 - ・家を借りる、就職等の行政による身元保障
 - ・心理カウンセラー制度の導入。

子育て・教育・文化

- 地域で支える子育て
- 多様な児童・生徒の受け入れによる教育現場の負担増
- 外国人児童・生徒の学習支援の課題
- 労働生産性が低い働き方により少子化が進行
- 日本人も外国人もさらに子育てしやすい街に
 - ・日本語が出来なくても子育てしやすい街にしてほしい。
 - ・多言語を話せる保育士の育成。
- 多様な人とコミュニケーションを取れる教育
 - ・多様な人との対話スキルに対する教育が必要。
 - ・大人への英語教育、外国人と意識せずコミュニケーションをとりたい。
 - ・グローバル教育、コミュニケーション教育の強化。
 - ・多様性を学ぶ教育の充実。
 - ・いろいろな国の方の支援ができるような人の育成（ミニ大使館）。
 - ・リアルタイム翻訳機の導入。
- 外国人市民が日本の生活文化や日本語を学べる機会
 - ・日本語教育のサポートや外国人へ日本文化を伝える。
 - ・外国人向け教育ボランティアなどの支援。
- 祭りなど松戸の伝統文化に多様な人が参加しやすい仕組みづくり
 - ・神社等もコミュニティ作りに活かし、祭り等の地域イベントに多様な人が参加しやすい仕組みをつくり、文化の担い手になってもらいたい。
 - ・松戸市の伝統文化を残していく仕組み。
 - ・地域イベントなどを多言語で様々な人に伝わりやすい形で情報発信する。

いきいきとした暮らし

- 高齢者が働きやすい環境
- 新たな発想による高齢者向けビジネスの拡大
- 地域が支える暮らし
- 地域の交流を促すための仕組みづくり
 - ・子どもを預かる、イベントが楽しいなど近所づきあいでメリットが感じられるような仕組み。

街の魅力や居心地

- 都心に近い立地という魅力のアピール
- 都心近郊の住宅地としての競争激化
- 松戸の伝統や魅力の発信
 - ・多様性に対応した松戸のCMを流すことで、松戸への人の流入を図る。
- 誰もが移動しやすい街
 - ・自動運転を可能にする取り組み。
- 市内の緑の保全
 - ・街に自然や公園、農地を残したい。自然や緑、公園、農地を残すための条例の整備。

【左上シナリオ：助け合う協働社会】 ～こんな世界～

個人の志向や状況にあった生き方や働き方を選択しやすい社会。技術自体は進化しているものの、それが日々の生活に十分には浸透していないため、主に地域の協働によって日々の生活をより良くするための取り組みが進んでいる。一方で、新しい技術を産業や教育、日々の生活を向上させるための活用方法が模索されている。

地域経済・働き方

- 女性、高齢者や外国人など就労者の増加
- 高齢者や外国人など多様な人向けの新たなビジネスの活性化
- 多様性の受け入れによるコストの増加や効率の低下
- 失業者の増加
- 労働生産性の低下
- デジタルデバイドを補うための公共コストの増加
- 事業の生産性向上のための新技術の活用支援
 - ・新技術に追いついていけるようになりたい。
 - ・事業の生産性を高めるための技術を導入しやすくしてほしい。
 - ・事業の生産性を高めるための技術の導入支援・補助。
 - ・企業、事業者向けの新技術活用のサポートを行う。
- 行政の生産性向上のための新技術の活用
 - ・行政コストを減らすためのシステム化、IT化。
- 創業や事業拡大のための支援
 - ・新しく事業を始める人向けの立場にあわせた情報提供。
 - ・労働に関する相談窓口の多様化への対応。
- 障がい者、外国人、高齢者の就職支援
 - ・高齢者や外国人が働く場の拡充。
 - ・AI翻訳や障害者向けの感情認識等を活用したコミュニケーション支援技術の開発。

安全・安心・快適な暮らし

- 多様性への理解が深まり地域での防災力の強化
- 多様性への理解が深まり犯罪抑止力が向上
- 災害弱者へのマンパワーでの対応
- 災害時等に外国人市民との言語の壁が懸念
- 新たな犯罪への対応強化
 - ・新たな犯罪の防犯と対応の強化をしてほしい。

複数シナリオ分析【左下シナリオ：より所のない孤立社会】：松戸市のチャンス・リスク・ニーズと戦略オプション（ワークショップでの意見まとめ）

人にやさしいまち・共生・持続可能性

- 現状と変わらない社会
- 独自の施策により他にない魅力を生み出すチャンス
- 外国人市民の増加・外国人市民からの相談やコミュニケーションの増加
- 多様性への理解不足・偏見
- 生活水準の格差拡大
- 社会保障負担の増大・サービスの低下
- 松戸への愛着の低下・定住人口の減少
- 多様なニーズを把握・地域共生を支える場やサポート体制づくり
 - ・街の課題を解決するために、課題の利害関係者間の調整をできるような人材がほしい。
 - ・町会単位で外国人をサポート。地域活動に外国人が参加しやすくなる
 - ・少数派な人たちの相談窓口の充実。
 - ・コミュニティー毎に外国人がなじみやすい街づくりを。
 - ・地域の課題を市民が自ら解決していくような取り組みの支援。
 - ・今回のようなワークショップや街の未来を考える場を開催。
 - ・訪問ボランティアを増やす仕組み。
- 大人へのIT教育
 - ・IT教育とそのためのコミュニティ形成。
- 地域情報の多言語化
 - ・町会・自治会の回覧板などの翻訳。
- 多様性について相互に理解を深める機会
 - ・世代・文化を越えた交流や学習機会を推進する。
 - ・異文化理解への啓発を行い、講演やイベント、お祭りなどの交流機会をもっと増やす。
 - ・町ゼミ（商店主など街の仕事を取り上げるセミナー等）で松戸愛を育む。
 - ・カフェ・サロン用スペースをつくる。公民館ではなく、いまだきの集う場所。
- 国籍や価値観の違いに起因するトラブルへの専門的なサポート
 - ・国籍や価値観の違いに起因するトラブルへの対処が必要。
 - ・弁護士など専門機関への相談費用のサポート。

安全・安心・快適な暮らし

- 地域での外国人市民との分断
- インフラ老朽化による災害時に危険な地域の存在
- 災害弱者へのサポート不足
- 国籍や価値観の違いに起因するトラブル
- 治安の悪化・犯罪の増加
- 防犯・防災のための適切な情報共有の仕組みの整備
 - ・トラブル対応のための窓口の設置と周知。
- 地域での助け合いによる防犯強化
 - ・助けたら助けられるような仕組みづくりの支援。
 - ・パトランなどの自主防犯組織の強化。

子育て・教育・文化

- IT教育需要の増加
- 子育て支援や教育のための財源不足
- 多様な児童生徒を受け入れる体制の不足
- 教育格差の拡大
- 教育格差の解消
 - ・教育無償化などの支援を継続してほしい。教育格差の解消。
 - ・子供が夢を持てるような環境を。夢を持てるよう子どもと未来を語る場づくり。
 - ・大人が未来について考え、語り合う機会を設ける。
 - ・子ども・子育て支援新制度などを継続していくための財源を確保する。
- 生活困窮世帯の親子へのきめ細かい支援
 - ・生活に困っている親子へのきめ細かい援助。
- 多様性に配慮した教育環境
 - ・多様性を受け入れる教育を。多様性のある子どもに適切な保障や教育環境。
 - ・フリースクール等の仕組みづくり。
 - ・留学、ホームステイの推進。
 - ・学校教育の中で多様性を学ぶ機会・授業を促進する。
 - ・学校に外国人の先生を増やす。
- 外国人市民が日本の生活文化や日本語を学べる機会
 - ・外国人に日本の生活文化を理解してもらいたい。
 - ・外国人のための日本語教室の拡充。
- リカレント教育の充実
 - ・生涯教育（大学・公民館）の推進。

いきいきとした暮らし

- 高齢者の就業率の向上
- コミュニティの細分化
- 介護人材の不足・家族の介護負担の増大
- 高齢者の就労の場が限定される
- 単身者・高齢者の孤独死のリスク
- デジタル格差による地域コミュニティの分断
- 高齢化や人口減少が著しく進む地域の課題が顕在化
- 介護への支援
 - ・在宅介護に対する支援の充実。介護の知識を深めるための取り組み。
 - ・単身向けサロン付き住宅。
- 高齢者が働いたり地域で活躍できる場づくり
 - ・高齢者の就労の場や居場所の充実。
 - ・いきいきサロンの推進、高齢者の拠点づくり。
- 生活のセーフティネットの充実
 - ・低所得者の生活水準を底上げするために生活補助。
 - ・生活がしやすい人のハード、ソフト面での支援。
 - ・ひとりひとりが人生の楽しみをそれぞれ持てる環境。

【左下シナリオ：より所のない孤立社会】 ～こんな世界～

個人の志向や状況などを踏まえた生き方や働き方を選択することが、十分に受け容れられていない社会。技術自体は進化しているものの、それらを十分に活用できていない場面が多い。そのような状況では、お互いに協働したり、日々のコミュニケーションを取る機会も減り、地域内での分断が顕著になっている。このことが地域内での防犯・防災対策を進める障害にもなり、日々の生活で不安を感じる人も増えている。

街の魅力や居心地

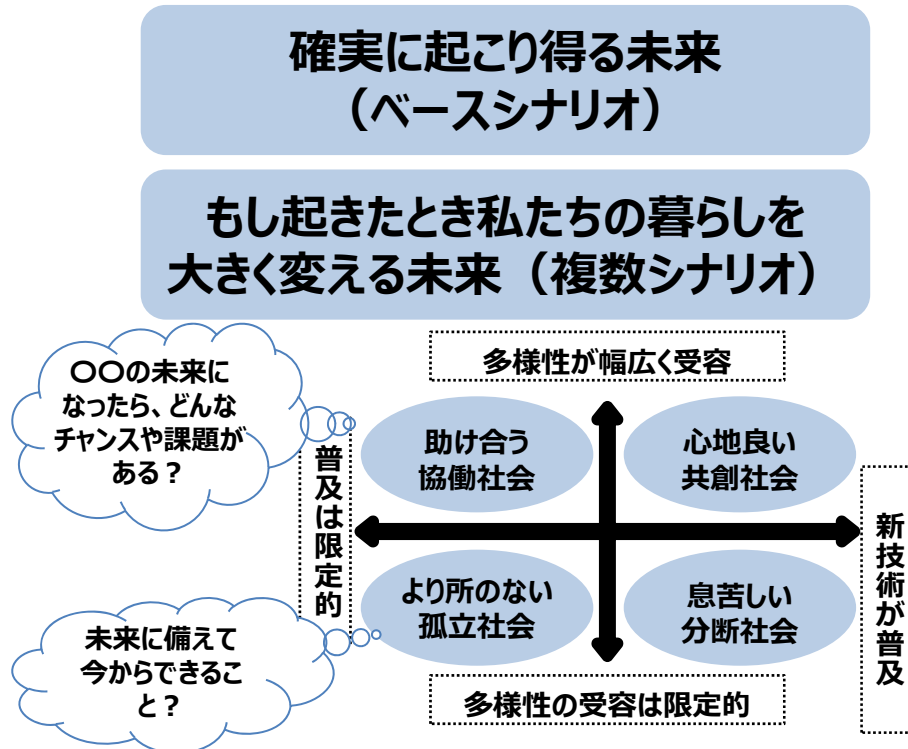
- 交通弱者が住みにくい地域
- 地域の意向が反映されない多様性のない街
- 公共施設や空き家が老朽化し景観や治安の悪化
- 交通不便地域の解消
 - ・市の中心部から離れた地域に住んでいる人にとっても生活で不便を感じないような移動手段を用意してほしい。
 - ・誰もが移動しやすい街。長期的な視点での交通事業者との協議・連携。
- 市内の緑の保全
 - ・緑の多い街のままでいてほしい。
- 空き家活用の促進
 - ・空き家等の遊休不動産の活用。

地域経済・働き方

- 労働力の需要が上がり賃金単価が上昇
- 専門性や高度な技術を持った分野の賃金単価が上昇
- ひとり暮らし世帯向けのビジネス拡大
- 高齢者や外国人の雇用が限定的に
- 多様性の受け入れによるコストの増加や効率の低下
- 産業分野による賃金格差が拡大
- 高齢者を雇用する企業の誘致
 - ・60歳以上を受け入れる企業を誘致してほしい。
- 農業の活性化・担い手支援
 - ・地域に根ざした農業への新規就労支援、事業承継の支援。
- 地産地消の推進
 - ・農業などの地域に根ざした産業を保護するために地産地消を推進してほしい。

4 シナリオの活用について

4-1 計画立案への活用



▼計画の構成 (案)

(1) 本市を取り巻く状況の分析

- ・これから確実に起きるだろう未来
- ・これから起きるかもしれない未来 (複数のシナリオ)

(2) 本市の将来ビジョン

(3) 施策展開の方向

- ・子育て、教育、文化、高齢者、街づくり、経済活性化、安全安心、行財政運営などの政策ごとの方向性
- ・ 2030年の松戸市のチャンス・リスク、戦略オプションを踏まえて、施策展開の方向や具体的な取組みについて検討していきます。

4-2 シナリオの進捗管理の考え方

- ・ ベースシナリオは、ほぼ確実に起こり得る未来であり、それに備えた対応が必要です。
- ・ 複数シナリオについては、新技術の普及状況や多様性の受容度に関する社会環境の変化に注視していきます。
- ・ 複数のシナリオのうち、どれかのシナリオの実現性が高くなった場合、そのシナリオに関する施策の見直し等を重点的に行っていくことでシナリオを活用できます。